

## 2) 鳥類

### ①概説

青森県の希少な野生生物に記載された鳥類は2000年に86種（青森県, 2000）、2006年に93種（青森県, 2006）、2010年は100種となった。青森県で記録された野鳥は約350種、その内約10%が迷鳥であるから、大ざっぱにいうと毎年出現する鳥類の3～4種に1種はレッドデータブック掲載種であることになる。

青森県は本州の最北に位置し、日本海・太平洋・陸奥湾と三方が海で囲まれ、山地・湖沼・河川・湿地と変化に富んだ自然環境があり、地域に定住する留鳥、季節に応じて渡りをする夏鳥・冬鳥・旅鳥が生息し、まれに本来の生息地や渡りのコースから迷い出た迷鳥が渡来休息する。こうしたことから本県は生息鳥類相も豊かで安定したものと考えられて来た。しかし、出現種の多さだけで自然の評価はできない。種の多様性と共に生息数・繁殖の年次変動などの動向は必ずしも安定しているとは言えない。

白神山地やその周辺に消息するクマゲラ（本州産クマゲラ研究会, 2004）・イヌワシ（青森県, 2004）・クマタカ（津軽ダム工事事務所, 2008）の繁殖状況が良好でない。また、白神山地のブナ林に広く生息していたコノハズクのさえずりを聞ける地点が減少している（小池私信, 2008）。ブッポウソウやコルリの減少もある。

ラムサール条約指定湿地の仏沼と周辺でのオオセッカは生息数の増加がある（蛭名私信, 2008）一方で、岩木川下流部の生息数はここ20～30年間大きな増減がない（小山, 2009）。

ツバメ・バン・カイツブリなどどこにでもいた普通種の減少があり、カンムリカイツブリ・カワウ・ササゴイ・ダイサギ・アオサギ・オシドリ・オナガガモ・オオバン・カワセミなどの個体数増加や分布拡大がある。また、津軽地方では猛禽類のノスリが平地での繁殖が増加し、水田地帯の農道やバイパス周辺に頻繁に出現するようになり、河畔林や町中の公園・神社仏閣の林、人家の庭にある樹木で営巣がはじまった。郊外の架橋、水田地帯のカントリーエレベーター、町中の倉庫などの建造物で営巣するチョウゲンボウも増加傾向にある。その他にも気になる鳥類がある。田畑に出現が多く、カラス類の冬ねぐらに混じるようになったミヤマガラス・コクマルガラス、冬の水辺で多くなった亜種ダイサギ、夏から秋の水田で目立つようになったチュウダイサギ・チュウサギの動向にも注目したい。

今回の改訂に先立ち、県内の野鳥関係者9名から意見を聴取し素案を作成したが、調査資料が少ない中での判断から、掲載種の選択は個人の主観が大きく作用している。掲載種は県内に生息する留鳥・夏鳥・冬鳥・旅鳥を対象とし、迷鳥は除外した。外洋性の鳥類は本県で繁殖するもののみ対象とした。

ランクの改訂は、減少の著しい種、出現頻度が低くなった種（コノハズク・オオジシギなど）はランクを上げた。個体数増加・分布拡大が大きくなった種（カンムリカイツブリ・オシドリなど）、個体数増加があり近い将来農林水産業との軋轢が予想される種（カワウ）はランクを下げるか削除した。

学名、分布は日本鳥類目録・改訂第6版（日本鳥学会, 2000）に基づいた。

（小山信行）

②本文

ミズナギドリ目 ウミツバメ科

A

和名 コシジロウミツバメ

環境省：該当なし

学名 *Oceanodroma leucorhoa leucorhoa* (Vieillot)

【形態的特徴】 全長約20.5cm。雌雄同色。全体に黒褐色で翼の上面に淡色の翼帯がある。腰部は白色で、中央に細い黒褐色の縦線がある。尾は切れ込みが深くV字状である。

【選定理由】 県内では下北半島の一部の島嶼（とうしょ）だけで繁殖している。ネズミなどの侵入やカモメ類の繁殖のため絶滅が危惧される。

【分布と生態の概要】 北太平洋に広く生息し、沿岸の島々や大洋中の孤島などで繁殖する。国内では、北海道の大黒島・歯舞群島・ハルカリモシリ島、岩手県の三貫島・日出島などで繁殖する。県内では、東通村弁天島で1995年に初めて繁殖が確認された。

【生存に対する脅威と保存対策】 弁天島は、民間会社のセメント積み出し港になっていて、一般人の立入禁止のため環境は比較的保全されている。しかし、船の接岸によるネズミの侵入、カモメ類の繁殖が脅威を増大している。捕食する鳥獣への対策が必要である。

【特記事項】 日米渡り鳥等保護条約・日露渡り鳥等保護条約・日豪渡り鳥保護協定指定種。

(阿部誠一)

コウノトリ目 サギ科

A

和名 サンカノゴイ

環境省：絶滅危惧ⅠB類

学名 *Botaurus stellaris stellaris* (Linnaeus)

【形態的特徴】 全長約70cm。全身が黄褐色で、黒褐色の様々な形の斑がある。頭頂部と顎線は黒褐色。胸部に暗褐色の縦斑がある。くちばしと足は黄緑色で目は黄色。

【選定理由】 県内にも渡来するが、夜行性のためあまり人目にふれず数も少ない。生息数が少ないことと、生息環境の減少または消滅により絶滅が危惧される。

【分布と生態の概要】 北アフリカ・ヨーロッパ・アジア南部に広く分布する。国内には冬鳥として草湿原・湖沼・河畔などに渡来するが、北海道と本州の一部では少数繁殖している。本州では秋冬にまれに観察され、本県では三沢市仏沼干拓地で生息が確認されている。

【生存に対する脅威と保存対策】 本来、生息数が少ないことに加え、生息地の湿地やヨシ原が開発等により減少している。鳥獣保護区等に指定し環境を保全することが必要である。

【特記事項】 日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

(阿部誠一)

コウノトリ目 サギ科

A

和名 オオヨシゴイ

環境省：絶滅危惧ⅠB類

学名 *Ixobrychus eurhythmus* (Swinhoe)

【形態的特徴】 全長39cm、翼開長56cm。顔から背面は濃い栗色、体下面が黄褐色で雄はのどから胸に黒の縦線が1本、雌は背に白斑があり胸に5本の縦線。雄は飛ぶと翼の黒い風切部分と淡灰褐色の雨おおいの色が際立つ。

【選定理由】 限られたヨシ原にごく少数が生息している。

【分布と生態の概要】 アジア東部・バイカル湖周辺・アムール川流域・ウスリー地方・中国東部から渤海沿岸部・朝鮮・サハリン・日本で繁殖。冬期は中国南部・東南アジアに渡る。北海道や本州中部以北では夏鳥として河川・湖沼・水田・湿地のヨシ原・草原に生息する。本県では、小川原湖周辺・岩木川下流部のヨシ原などに生息しているが、出現はまれである。

【特記事項】 日露渡り鳥等保護条約・日米渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

(小山信行)

鳥類

**コウノトリ目 サギ科****A**

和名 ミゾゴイ

環境省：絶滅危惧ⅠB類

学名 *Gorsachius goisagi* (Temminck)

[形態的特徴] 全長約49cm。上面は暗赤褐色で、雨覆は赤褐色。下面は淡黄褐色で黒褐色の縦斑がある。くちばしは黒く短めである。目の周囲や目先は水色の皮膚が露出している。

[選定理由] 県内には少数生息するが、生息・繁殖する環境の減少によって出現頻度が著しく減少した。かつて平川市の猿賀神社境内にも少数繁殖していたが現在はいない。

[分布と生態の概要] 台湾・フィリピンなどで越冬し、夏鳥として渡来する。本州から九州にかけて繁殖し、南日本では越冬するものもある。低山の林に生息するが、夜行性のため目につきにくい。最近、全国的に数が減少している。県内では、1993年三沢市、1997年青森市で記録されている。

[生存に対する脅威と保存対策] 生息地の低山の森林や湿原等が開発等により破壊され、生息数が減少している。低山の森林や湿原等を保護区等に指定し、保全する必要がある。

[特記事項] 日米渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。 (阿部誠一)

**タカ目 タカ科****A**

和名 クマタカ

環境省：絶滅危惧ⅠB類

学名 *Spizaetus nipalensis orientalis* Temminck et Schlegel

[形態的特徴] 全長雄72cm、雌80cm、翼開長140～165cm。トビよりやや大きいタカである。後頭の角張る冠羽が特徴である。飛翔時の翼は幅広く、先端は指状に開き後縁はふくらみがある。のどから体の下面は白色で胸に縦斑、腹に横斑、翼の下面と尾には明瞭な横斑がある。

[選定理由] 自然が豊かな山林に生息する個体数の少ない種である。

[分布と生態の概要] 亜種クマタカは日本にだけ生息する日本固有亜種。世界で一番北に生息する亜種である。日本全国の山林に留鳥として生息している。大樹に営巣し産卵は1個である。県内では下北半島・津軽半島・八甲田山系等に広く分布しているが白神山地及びその周囲山域に生息数が多い。生息地は主に山地であるが津軽半島北部では海岸部にも出現する。営巣地は人里から離れた場所が多いが、集落に近いスギ林に営巣するものもある。ウサギ・キジ・ヤマドリ・ヘビなどを食べ、餌獲りは林間・伐採跡地・林道・河畔・農地等で行われる。

[特記事項] 国内希少野生動植物種。 (小山信行)

**タカ目 タカ科****A**

和名 イヌワシ

環境省：絶滅危惧ⅠB類

学名 *Aquila chrysaetos japonica* Severtzov

[形態的特徴] 全長雄81cm、雌89cm。翼開長170～213cm。トビより大きい。成鳥は全体が黒褐色で後頸部が金褐色。若鳥は両翼の下面に三角形の白斑があり、尾の基部が白色。若鳥の翼と尾の白斑は年齢により変化する。くちばしは先が黒色、基部は黄色。足も黄色である。

[選定理由] 白神山地など限られた地域で繁殖し、県内の生息数がごく少数である。

[分布と生態の概要] 亜種イヌワシは留鳥で日本と朝鮮で繁殖。日本では北海道から九州の限られた山岳でまれに繁殖。県内では白神山地2か所で営巣(青森県, 2004)、約10羽生息し、一部が岩木山山麓に飛来する。八甲田山系にもごく少数が生息している。下北半島・津軽半島でも出現の記録があるが周年生息は不明である。白神山地では成鳥の出現状況から新たな営巣地が存在する可能性がある。人が近づけない崖の岩だなや大きな樹木で営巣する。ウサギ等の小形獣類・ヤマドリ・ヘビなどを捕食する。山地の裸地・伐採跡地・森林周辺の草地・林道等で餌を獲る。

[特記事項] 国の天然記念物、国内希少野生動植物種。 (小山信行)

**キジ目 キジ科****A**

和名 ウズラ

環境省：準絶滅危惧

学名 *Coturnix japonica* Temminck et Schlegel

【形態的特徴】 全長20cm、翼開長30cm。体は丸く尾は短い。頭、体の上面は褐色で黒と淡黄色の横斑、縦斑があり、白色の縦斑が目立つ。雄の夏羽は顔からのどが赤褐色で、雌ののどは淡褐色に2本の黒帯がある。

【選定理由】 草原、原野などの生息地が減少し、出現がまれとなった。

【分布と生態の概要】 ロシア東南部・バイカル湖からアムール川流域・サハリン・中国東部・日本で繁殖。冬期は中国南部・朝鮮・東南アジア・日本南部で越冬。日本では本州中部以北で夏鳥が繁殖し、本州中部以南で越冬する。低地から山地の草原、農地周辺の草地に生息。県内では、岩木山麓の草原、上北地方の牧野などに多く見られていたが、近年はいちじるしく出現頻度も少なくなった。近年では三沢市の仏沼・岩木山南山麓の出現記録がある。

【特記事項】 日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。 (小山信行)

**ツル目 クイナ科****A**

和名 ヒメクイナ

環境省：該当なし

学名 *Porzana pusilla pusilla* (Pallas)

【形態的特徴】 全長20cm前後、額から尾羽までの上面が淡い茶色で、頭頂には黒い縦斑、背に黒と青灰色の縦斑がある。顔から腹までは青灰色で、下腹部から下尾筒は白黒の横斑がある。

【選定理由】 個体数に関する調査はないが、生息環境の減少などにより個体数も減少していることが予想される。近年では、仏沼国設鳥獣保護区で少数が毎年確認されるのみである。

【分布と生態の概要】 東北地方北部以北に夏鳥として飛来するが、県内では岩木川河口・仏沼干拓地・木造町柴田などから記録がある。仏沼国設鳥獣保護区では1981年から数回の記録があり(蛇名, 2007)、2003年に鳴き声が録音されて(宮ら, 2005)から、毎年少数が確認されている。湿地の草原やアシ原に潜んでいて、めったに姿を見ることがない。日没後夜間にかけて“ジリリリ”とカエルに似た声で鳴く。

【生存に対する脅威と保存対策】 生息環境である湿地性草原の減少が脅威となる。現在生息している生息地の保全が必要である。 (宮彰男)

**ツル目 クイナ科****A**

和名 ヒクイナ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

学名 *Porzana fusca erythrothorax* (Temminck et Schlegel)

【形態的特徴】 全長23cm、翼開長37cm。顔・胸・腹が赤茶色、背や翼は緑褐色、尾が短く足が赤い。わき腹と下尾筒には白と黒の横縞がある。

【選定理由】 以前は湿原、水田でよく鳴いていたが近年の出現はごくまれとなった。

【分布と生態の概要】 中国南東部・朝鮮・日本で繁殖。冬期は東南アジアに渡る。日本では夏鳥として全国に広く分布・繁殖しているが個体数は少ない。本州南部では少数が越冬する。沼沢や湖沼のヨシ原・水田・湿地・河畔の草地などに生息する。県内では津軽地方の河川・水田・湖沼付近の湿地、太平洋側では小川原湖周辺の湿地で少数生息している。繁殖期には夜通し“キョッ、キョッ、キョッ、キョッキョッキョッキョ……”と特徴ある鳴き声が聞かれる。曇天時には昼でも鳴くことがある。降雨後の晴れ間などに草地から人目につきやすい場所に出ることがある。湿地の草むらをたくみに歩行し、昆虫・カエル・貝類・植物の種子などを食べる。

【特記事項】 日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。 (小山信行)

**ツル目 クイナ科****A**

和名 シマクイナ

環境省：絶滅危惧ⅠB類

学名 *Coturnicops noveboracensis exquisitus* (Swinhoe)

**[形態的特徴]** 全長13cm前後の小さなクイナである。頭上から体上面は褐色で、黒い縦斑とそれに交わる白い細線がある。顔、胸、脇は褐色で脚は黄褐色。嘴は暗褐色、次列風切羽は白い。

**[選定理由]** 繁殖期の生息確認は日本で仏沼国設鳥獣保護区のみで、ごく少数が生息している。

**[分布と生態の概要]** 繁殖地はトランスバイカリア東南部と中国東北部に局地的にある。県内では下北郡尻屋崎（清棲, 1978b）と東津軽郡外ヶ浜町三厩（成田, 1996）の記録がある。

従来国内に数少ない冬鳥として飛来するのみと考えられていたが、2003年に仏沼国設鳥獣保護区で繁殖期に少数生息していることが確認され（宮ら, 2007）、繁殖地の可能性が高いと考えられる。

**[生存に対する脅威と保存対策]** 休耕田を含め、生息する湿地性草原の減少が脅威となる。現在生息している生息地の保全が必要である。また絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律の国内希少野生動植物種に指定して、保護対策を行うべきである。（宮彰男）

**チドリ目 シギ科****A**

和名 ヘラシギ

環境省：絶滅危惧ⅠA類

学名 *Eurynorhynchus pygmeus* (Linnaeus)

**[形態的特徴]** 全長15cm、翼開長37cm。スズメ大の小形シギで、先が広がった黒いスプーン状のくちばしが特徴。冬羽は上面が暗灰色で下面は白色。夏羽は顔から胸にかけて赤褐色。

**[選定理由]** 全国的に渡来数が少なく、県内の出現もまれである。

**[分布と生態の概要]** チュコト半島からカムチャツカ半島北部まで、ロシア北東部の沿岸ツンドラ地帯で繁殖し、冬期は中国南部やインドシナ半島の沿岸部に渡る。日本では春や秋に旅鳥として干潟・砂浜などに渡来するが数は少ない。県内への渡来も少ないが、太平洋側の記録が比較的多い。津軽地方では水を落とした溜池などにまれに出現する。干潟・砂浜・休耕田・埋立地の水溜まりでくちばしを水につけ、左右にふり動かしながら餌をあさる。餌は甲殻類や昆虫などである。

**[特記事項]** 日露渡り鳥等保護条約・日米渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

(小山信行)

**チドリ目 カモメ科****A**

和名 コアジサシ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

学名 *Sterna albifrons sinensis* Gmelin

**[形態的特徴]** 全長約28cm。上面は青灰色で喉から下面は白い。夏羽では頭部が黒く、足は橙黄色。くちばしは黄色で先が黒い。冬羽はくちばしと足が黒くなり、頭部の白い部分が拡大する。

**[選定理由]** 生息・営巣地である河川や砂浜等の開発による環境の変化およびレジャー等による人的被害が多く生息数が激減している。

**[分布と生態の概要]** 温・熱帯地域に広く分布する。国内には夏鳥として本州以南に渡来し、広い川原や砂浜で集団繁殖する。海岸・川・池などでおもに小型の魚類を採食する。県内にも、海岸・湖沼等に渡来する。以前は、太平洋側と日本海側の一部で繁殖していたが、現在は不明である。

**[生存に対する脅威と保存対策]** 砂浜や河川敷等への車の進入や開発等により、生息環境の悪化や減少が大きな脅威となっている。保護区等に指定して、それらに対する対策が必要である。

**[特記事項]** 日米渡り鳥等保護条約・日露渡り鳥等保護条約・日豪渡り鳥保護協定・日中渡り鳥保護協定指定種。（阿部誠一）

**チドリ目 ウミスズメ科****A**

和名 ケイマフリ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

学名 *Cepphus carbo* Pallas

**[形態的特徴]** 全長約37cm。夏羽では体が黒く、目のまわりとくちばしの付根が白い。冬羽では下面が白く、目のまわりの白が小さい。足は赤い。

**[選定理由]** 県内では下北半島の一部の島嶼（とうしょ）だけで繁殖しており、生息数も100～150羽程度と少ない。ネズミなどの侵入やカモメ類の繁殖のため絶滅が危惧される。

**[分布と生態の概要]** オホーツク沿岸・サハリン・千島列島・朝鮮半島・北海道等の海岸や沿岸の島嶼・岩礁等で繁殖。本州北部の一部でも繁殖する。夏季は海上・海湾・島嶼・岩礁などに生息し、冬季は海上・海湾で生活する。県内では東通村尻屋弁天島で繁殖しているが数は少ない。

**[生存に対する脅威と保存対策]** 民間人立入り禁止の企業構内の島で繁殖している。しかし、生息数がごく少数の上に、ネズミ等の外敵の侵入やカモメ類の繁殖による被害も考えられ、保護対策が必要である。

**[特記事項]** 日露渡り鳥等保護条約指定種。

(阿部誠一)

**フクロウ目 フクロウ科****A**

和名 コノハズク

環境省：該当なし

学名 *Otus scops japonicus* Temminck et Schlegel

**[形態的特徴]** 全長19～22cm、翼開長43～60cm。フクロウ類中最小。耳の形をした羽角があり、体色が赤褐色のタイプと灰褐色のタイプがある。腹部に黒色・灰色の複雑な虫くい状の斑紋がある。目は黄色。飛翔時の翼下面は灰白色で黒い横斑がある。

**[選定理由]** 深山の樹木の多い森林に生息するが、生息・繁殖地は限られ個体数が少ない。

**[分布と生態の概要]** 九州から北海道まで夏鳥として渡来し繁殖する。冬期は南日本に移動、台湾にも渡ると考えられている。白神山地、下北半島など深山の森林で繁殖・生息する夏鳥である。主に夜“ブッキョッコ”と特徴ある声で鳴き交わす。白神山地の赤石川奥地では、夏の霧の深い日には昼でも鳴き声を聞くことがある。樹の穴に営巣するが、かつて三戸町の城山公園では巣箱に営巣した例がある（向山, 1978）。人が近づくと羽角を立てて体を細くし木の幹に擬態する。主に昆虫を食べる。

**[特記事項]** 鳴き声が“ブッポウソー”と聞こえるので声の仏法僧ともいう。他にブッポウソウという別種がいる。

(小山信行)

**キツツキ目 キツツキ科****A**

和名 クマゲラ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

学名 *Dryocopus martius martius* (Linnaeus)

**[形態的特徴]** 全長46cm、翼開長66cm。日本最大のキツツキ。全体が黒色で、雄の頭上部は全体が赤く、雌は後頭部だけ赤い。くちばしは黄色。飛翔時、翼の先端が指を開いたように見える。

**[選定理由]** 限られたブナ林にごく少数しか生息していない。

**[分布と生態の概要]** 北半球中から高緯度、ユーラシアに広く分布。日本では北海道と本州北部に留鳥として生息している。ブナ林の面積などから推定した北東北3県全体の生息可能個体数は250～124羽である（小笠原ら, 1990）。本県の生息地は白神山地と十和田八幡平国立公園であるが、生息数は10～20個体程度と考えられ、姿を見ることはまれである。広大なブナ林で繁殖し、アリなど朽木の中にいる昆虫を食べる。巣は下枝の少ないブナの幹に穴を穿ち造り、巣穴入口の大きさは縦約15cm、横10cmの長円形である。生息域には、立木や倒木に大きくつつき削った生活痕が見られる。木をつつくドラミングは力強く大きな音を立て、“クイーン・クイーン、コロコロコロ”など特色ある鳴き声を出す。

**[特記事項]** 国の天然記念物。

(小山信行)

**スズメ目 モズ科****A**

和名 チゴモズ

環境省：絶滅危惧ⅠA類

学名 *Lanius tigrinus* Drapiez

**[形態的特徴]** 全長18cm、翼開長25cm。頭が青灰色、背と尾は赤褐色で黒い横斑がある。喉と腹部は白色で、雌の腹部側面には褐色の横斑がある。くちばしは黒色、足は黒褐色で木に止まっている時、腹部の白色と黒色の過眼線が目立つ。眉斑はない。

**[選定理由]** 毎年繁殖していた地域から姿を消し、ごくまれにしか見られなくなった。

**[分布と生態の概要]** 北は中国北東部・ウスリー地方・朝鮮・日本、南は中国東部の揚子江流域から西の四川省にかけて繁殖。冬期はマレー半島、大スンダ列島に渡る。日本では夏鳥として本州中部以北に渡来、平地から低山帯の林に生息。全国的に生息が局地的で、個体数が少ない。県内では低山帯から市街地の小さな林にまれに生息し、かつて弘前市の公園や寺社の林で毎年繁殖していたが、近年出現がない。夏鳥で5月下旬から6月上旬に渡来し、公園の樹木などに小枝やビニールひもで巣を作る。鳴き声は“ギジギジギジチギチ…”と力強い。昆虫やカエルを食べる。

**[特記事項]** チゴモズのチゴは稚児の意。日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

(小山信行)

**スズメ目 モズ科****A**

和名 アカモズ

環境省：絶滅危惧ⅠB類

学名 *Lanius cristatus superciliosus* Latham

**[形態的特徴]** 全長20cm、翼開長27cm。頭上から尾まで赤褐色で腹部が白色。黒色の過眼線と白色の眉斑が目立つ。喉と腹部は白色で、脇腹は橙黄色。くちばしは黒色、足は灰黒色。

**[選定理由]** 近年生息数が減少し、まれにしか見られなくなった。

**[分布と生態の概要]** 亜種アカモズはサハリンと日本で繁殖し、冬期は中国南部・ハイナン島・インドシナ半島・マレー半島・スンダ列島に渡る。日本では本州以北に夏鳥として渡来、繁殖している。四国・九州では旅鳥。県内では夏鳥で灌木の混じる草原や河川敷、明るい林など、開けた場所に生息する。巣は普通灌木の茂みに作るが、津軽地方の一部ではりんご園や人家の庭に営巣するものもあり、ゴミムシ類・コオロギ・セミ・カエル・ネズミ・モグラ、時にはスズメを捕食し、はやにえにする。まれに、スズメバチやクマバチもはやにえにする。鳴き声は“ギチギチギチ…”とモズよりやや太い声である。

**[特記事項]** 肉食で気性が荒いので‘もずたか’の地方名がある。日露渡り鳥等保護条約指定種。

(小山信行)

**スズメ目 ウグイス科****A**

和名 オオセッカ

環境省：絶滅危惧ⅠB類

学名 *Locustella pryeri pryeri* (Seebohm)

**[形態的特徴]** 全長13cm。スズメ大で目立たない鳥。体の上面は褐色で背に黒い縦斑がある。のどから腹部は白色で、脇は淡褐色をしている。尾は中央が長く、外側が次第に短いくさび形。

**[選定理由]** 三沢市仏沼地域・岩木川下流地域などごく限られた地域に生息している。

**[分布と生態の概要]** 亜種オオセッカは日本の本州北部と中部で繁殖し、冬期は本州の温暖な地方で越冬する。日本全国の生息個体数は2001年現在で約2,500羽と推定されている(上田, 2003)。個体数が多い繁殖地は本県の仏沼、岩木川下流域、茨城県・千葉県の下流川下流域である。県内の生息地・繁殖地は草丈が2m弱のヨシが疎生する、下草もあってやや貧弱なヨシ原である。岩木川下流域の生息地ではコヨシキリ・オオヨシキリ・コジュリン・オオジュリン・ホオアカなども同地に生息している。オオセッカはなわばり内で、同種のさえずりに対し強い威嚇・警戒声を発するが、他種に対する攻撃性は少なく、上記他種のさえずりに対して特別な反応はしない。

**[特記事項]** 日本だけで繁殖・生息する日本特産の亜種、国内希少野生動物種。(小山信行)

**コウノトリ目 サギ科****B**

和名 ヨシゴイ

環境省：準絶滅危惧

学名 *Ixobrychus sinensis sinensis* (Gmelin)

**[形態的特徴]** 全長36cm、翼開長53cm。日本最小のサギ。雄の頭は黒く、体は黄褐色。飛ぶと翼の外縁部が黒く見える。雌は頭上が赤褐色でのどから腹にかけ褐色の縦斑がある。

**[選定理由]** 生息環境の減少により、生息数が少ない。

**[分布と生態の概要]** インド・スリランカ・東南アジア・中国・日本で繁殖。九州から北海道の各地に夏鳥として出現。水田・湖畔・池畔などの湿地草原に生息する。冬は南方の島々・琉球・台湾などへ南下するものが多いが、本州には少数残留するものがある。県内にも夏鳥として湿地のヨシ原・河川・湖沼・水田・溜池などの湿地の草地に生息・繁殖している。近年、湿原などの減少によって生息数が減少している。

**[特記事項]** 日露渡り鳥等保護条約・日米渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

(小山信行)

**コウノトリ目 サギ科****B**

和名 クロサギ

環境省：該当なし

学名 *Egretta sacra sacra* (Gmelin)

**[形態的特徴]** 全長62cm、翼開長100cm、足がやや短い中形のサギ。体色が黒い黒色型と白い白色型がある。また、白色に黒斑がある中間型もいる。成鳥の後頭には短い冠羽がある。

**[選定理由]** 県内各地の海岸に生息するが、生息数が少なく出現がまれである。

**[分布と生態の概要]** 韓国・台湾・東南アジア・オーストラリアに分布。国内では北海道から九州の海岸部に広く分布し、九州以北では黒色型が多く、鹿児島県以南では黒色型と白色型が出現する。県内では夏鳥、または留鳥として、日本海岸・太平洋岸・陸奥湾岸の岩礁地帯に黒色型が生息する。冬期、本県では出現頻度が少ないことから温暖な地域に南下するものと考えられる。厳寒期の生息状況は十分知られていないが、日本海岸の五能線・十二湖駅付近の岩崎海岸の岩礁地帯では1～2月にカニなどを採餌する姿が見られる。

**[特記事項]** 日米渡り鳥等保護条約指定種。

(小山信行)

**カモ目 カモ科****B**

和名 シノリガモ

環境省：絶滅のおそれのある地域個体群（東北地方以北）

学名 *Histrionicus histrionicus pacificus* Brooks

**[形態的特徴]** 全長42cm、翼開長66cm、雄は藍黒色の体に白い斑とわきの赤茶色が特徴。雌は黒褐色で顔の前面、側面に白斑がある。

**[選定理由]** 国内には冬鳥として飛来するが、県内の限られた溪流で少数が繁殖している。

**[分布と生態の概要]** シベリヤ東部から北アメリカ北西部にかけて繁殖し、冬鳥として、日本中部以北の岩礁のある海岸に渡来する。これとは別に北海道、北日本でまれに繁殖するものがあり、県内では、白神山地・下北半島・八甲田山系など山間部の溪流で繁殖している。特に白神山地では夏期に各地の溪流部で雛連れの家族群が出現する。国内で繁殖したのも冬期海岸で生活する。

厳寒期、県内各地の海岸部洋上に散見されるが、渡来個体群と県内繁殖群の識別はできない。波の穏やかな日は岩礁付近の海上で見られ、波の荒い日は漁港など防波堤内側に出現する機会が多い。

**[特記事項]** 日本国内の繁殖初認は1976年、白神山地赤石川である（三上, 1978）。日米渡り鳥等保護条約・日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

(小山信行)



**タカ目 タカ科****B**

和名 ミサゴ

環境省：準絶滅危惧

学名 *Pandion haliaetus haliaetus* (Linnaeus)

【形態的特徴】 全長雄54cm、雌64cm、翼開長155～175cm。翼は細長く尾が短い。頭部と体の下面が白く胸に黒褐色の帯がある。翼の上面が黒褐色、下面は白色。足は灰色で指の内側には魚をしっかりつかむこぶ状のすべり止めがある。

【選定理由】 繁殖地が限られ、個体数が少ない。

【分布と生態の概要】 北半球ではユーラシア大陸・北アメリカ・西インド諸島に広く分布し、北部で繁殖するものは、冬期南の地域へ移動する。南半球ではオーストラリアの沿岸に留鳥として生息する。日本全国の海岸・河口・湖沼の近くで繁殖。県内では下北半島・津軽半島の海に近い岩場や樹上に営巣している他、内陸の湖沼近くでも繁殖しているが個体数は少ない。空から急降下して水中の魚類を捕らえ、獲物は両足を前後にして棒を握るように保持する。春から秋に見られ冬は暖地へ移動するが、降雪がある時期にも少数見られることがある。

【特記事項】 日米渡り鳥等保護条約・日露渡り鳥等保護条約指定種。 (小山信行)

**タカ目 タカ科****B**

和名 オジロワシ

環境省：絶滅危惧ⅠB類

学名 *Haliaeetus albicilla albicilla* (Linnaeus)

【形態的特徴】 全長雄80cm、雌64cm、翼開長180～230cm。飛翔時の翼は大きく幅広い。成鳥の尾は白い短いくさび形。口ばしと足が黄色、若鳥は尾が褐色で口ばしは灰黒色。

【選定理由】 渡来数が少なく、出現がまれな大形猛禽類である。

【分布と生態の概要】 北ヨーロッパからロシア東部まで広く繁殖し、冬期南部で越冬する。日本では北海道で一部繁殖し、大部分は冬鳥として北日本の海岸や大きな湖沼・河川で少数が見られる。県内では各地の港、大きな河川、小川原湖・十三湖・廻堰大溜池等に出現する。厳寒期はカモ類などが群れる限られた場所に生息し、餌場の上空を旋回したり氷上や樹上に休む。県内ではカモ類を食べるが、北海道ではカモメ・カラス・ウサギ・イヌ・ネコなどを食べ、夏はヘビも捕食する(森, 1980)。

毎年3月、北帰行するカモの大群と同行し、1か所の水辺に10～20羽見られることもある。

【特記事項】 国の天然記念物、国内希少野生動植物種指定種。日米渡り鳥等保護条約・日露渡り鳥等保護条約指定種。 (小山信行)

**タカ目 タカ科****B**

和名 オオワシ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

学名 *Haliaeetus pelagicus pelagicus* (Pallas)

【形態的特徴】 全長雄88cm、雌102cm、翼開長220～245cm。日本最大の海ワシ。翼は長く幅広く、尾は長目のくさび形。黄色で大きなくちばし、足も黄色。成鳥は肩部分と尾が白色、若鳥は肩・尾の白がはっきりしない。若鳥は成長するにつれて肩・尾が白くなる。

【選定理由】 渡来数が少なく、出現がまれな大形猛禽類である。

【分布と生態の概要】 オホーツク海沿岸とサハリン北部で繁殖し、冬は日本、韓国で越冬する。

日本には冬鳥として日本全国に渡来、海岸や大きな湖沼・河川に出現するが個体数は少ない。県内では小川原湖・十三湖などの結氷した広い湖面に1羽、2羽と少数個体が分散して休息する。内陸にも飛来するが中小河川に立ち寄ることはまれである。魚が主食であるが、本県では弱ったカモ類を食べることが多い。

【特記事項】 国の天然記念物、国内希少野生動植物種、日米渡り鳥等保護条約・日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。 (小山信行)

**タカ目 タカ科****B**

和名 オオタカ

環境省：準絶滅危惧

学名 *Accipiter gentilis fujiyamae* (Swann et Hartert)

**[形態的特徴]** 全長雄50cm、雌57cm、翼開長105～130cm。ほぼハシブトガラス大のタカである。翼が幅広く短く尾は長い。目の上に白い眉斑がある。成鳥は飛翔時翼の下面が白く、胸から腹にかけて細かい横縞がある。幼鳥は全体が褐色で胸から腹にかけて褐色の縦斑がある。

**[選定理由]** 全国的に少なく、出現頻度が低い猛禽類である。

**[分布と生態の概要]** 亜種オオタカはサハリンと日本で繁殖している。県内では人里に近い林で繁殖し、低山帯から市街地まで広い範囲で見られるが数は少ない。太平洋側より日本海側、特に津軽地方の中央部で比較的密度が高い。津軽地方ではカルガモがよく捕食されている。留鳥であるが山地に生息する個体は厳冬期に里へ移動する。また、秋には竜飛崎等で北からの渡りが見られる。冬期はカモの群れる水辺によく出現し、市街地や公園でカラスやカワラバトを捕食するものもある。

**[特記事項]** 昔、殿様の鷹狩りに用いられた。種名の*gentilis*は高貴なとか家柄がよいの意である(森岡ら, 1995)。国内希少野生動植物種、日露渡り鳥等保護条約指定種。(小山信行)

**タカ目 タカ科****B**

和名 ツミ

環境省：該当なし

学名 *Accipiter gularis gularis* (Temminck et Schlegel)

**[形態的特徴]** 全長雄27cm、雌30cm、翼開長52～63cm。日本最小のタカ。雄の上面は暗青灰色、下面は白く、脇腹は黄赤褐色、目は暗紅色。雌の上面は暗石板色、胸・腹部は白く暗褐色の横縞があり目は黄色。

**[選定理由]** 営巣地が少なく出現頻度が低い猛禽類である。

**[分布と生態の概要]** 亜種ツミはサハリンと日本で繁殖し、冬期は中国南部や東南アジアに渡る。本県では主に低山帯から平地の林地に生息しているが個体数は少ない。小禽類・ネズミ・コウモリ・昆虫を餌にする。林内で狩りをすることが多いことから人目にふれる機会が少ない。しかし、人里や農地で狩りをする例も多く、果樹園・水田・畑地などの農作物保護用、鶏舎の野鳥除けに使用する防鳥網の犠牲になる個体も少なくない。春、秋の渡りの時期には他のタカ類に混じり、上空を旋回移動する個体が見られる。

**[特記事項]** 日米渡り鳥等保護条約・日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。(小山信行)

**タカ目 タカ科****B**

和名 ハイタカ

環境省：準絶滅危惧

学名 *Accipiter nisus nisosimilis* (Tickell)

**[形態的特徴]** 全長雄32cm、雌39cm、翼開長61～79cm。雄はハト大、雌は雄より大きいがかラスより小さい小形のタカである。飛翔時は下面が白色で褐色の横斑があり、翼は幅広く先が丸みをおび、尾は長目で太い横縞が4本ある。

**[選定理由]** 近年出現記録が少なくなった猛禽類である。

**[分布と生態の概要]** ロシア東部・エニセイ川からオホーツク沿岸まで、サハリン・日本・韓国と広範囲で繁殖。北で繁殖したものはインド・東南アジア・中国南部に渡る。日本では本州以北で繁殖し留鳥、秋期、冬期は日本全体に分散生息する。県内では各地の低山帯、人里に周年見られるが数は少ない。県南地方より津軽地方の生息密度が高い。夏期は農耕地付近の林に生息するものが多いが、冬期は河川敷の茂みや市街地の公園にも出現し、シジュウカラやスズメの群を追うのをよく見かける。

**[特記事項]** 日露渡り鳥等保護条約指定種。(小山信行)

**タカ目 タカ科****B**

和名 ケアシノスリ

環境省：該当なし

学名 *Buteo lagopus menzbieri* Dementiev

【形態的特徴】 全長雄56cm、雌59cm、翼開長124～143cm。翼は幅広く先は丸みをおび、尾は短く丸く端に黒い帯がある。飛翔時の下面は白色で初列風切先端の黒と翼角の黒斑が目立つ。胸部に褐色の縦斑があり、足の付け根の腹部は褐色である。

【選定理由】 渡来数が少なく毎年出現する場所は限られている。

【分布と生態の概要】 ロシア北部のエニセイ湾から東のチュクチ半島・カムチャツカ半島に至る地域で繁殖。冬は中国南部・韓国・日本に渡る。まれな冬鳥として日本各地に出現する。津軽地方では岩木山山麓や各地の田畑、広い河川敷等でまれに見られる。太平洋側では小川原湖周辺のヨシ原には毎年少数が飛来し越冬している。主にネズミ類、小鳥などを食べている。

【特記事項】 ケアシノスリのケアシは足に羽毛があるの意である。日露渡り鳥等保護条約・日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。 (小山信行)

**タカ目 タカ科****B**

和名 サシバ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

学名 *Butastur indicus* (Gmelin)

【形態的特徴】 全長雄47cm、雌51cm、翼開長103～115cm。体上面が濃い褐色、体下面が淡褐色、ハシボソガラス大のタカである。体色に変異があり、体全体が黒褐色の暗色型もある。飛翔時、翼の下面・尾に太い横縞があり、胸は褐色の密な横斑、のどに黒い縦線がある。

【選定理由】 渡来数が少なく、出現記録が少ない。

【分布と生態の概要】 ロシア東南部・アムール川流域、中国北東部・韓国・日本で繁殖。冬期はマレー半島・インドシナ・フィリピン・モルッカ諸島・ニューギニア島に渡る。日本では夏鳥として本州以南の山間にある農地付近の林、湿地や湖沼に接した山林等に生息している。林縁部を巡回しカエルや小鳥・昆虫などを捕食している。県内では各地の低山帯で散見されていたが、近年つがる市の湖沼・溜池付近の林地で繁殖するようになった。

【特記事項】 山間農地、里山の生物相の豊かさを知る指標動物である。日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。 (小山信行)

**タカ目 タカ科****B**

和名 ハイイロチュウヒ

環境省：該当なし

学名 *Circus cyaneus cyaneus* (Linnaeus)

【形態的特徴】 全長雄45cm、雌51cm。翼開長99～124cm。両翼をV字形にして飛翔し、翼と尾が細長くスマートな体形である。雄は背と尾が明るい灰色、胸と腹は白色、翼の先端部に黒色があり、尾の付け根が白色である。雌は全体が褐色で胸・腹に褐色の縦斑、翼と尾に黒帯。

【選定理由】 広大なヨシ原や水田にまれに出現する。

【分布と生態の概要】 ユーラシア大陸北部、北アメリカ北部で繁殖、冬期はイラン・インド・中国・韓国・日本・東南アジアに渡る。日本では冬鳥として全国に出現。県内では秋から春に少数が広いヨシ湿原・河川敷等に出現する。太平洋側では小川原湖や周辺湖沼付近のヨシ原・原野、日本海側では岩木川下流のヨシ原や水田で見られる。ヨシ原や水田の上空を低空で飛び、ネズミや小鳥などを捕食する。

【特記事項】 属名の*Circus*は空中に円を描いて飛ぶことに由来する (内田, 1983)。日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。 (小山信行)

**タカ目 タカ科****B**

和名 チュウヒ

環境省：絶滅危惧ⅠB類

学名 *Circus spilonotus spilonotus* Kaup

**[形態的特徴]** 全長雄48cm、雌58cm。翼開長113～137cm。トビより小さく雄は頭部から背は黒色または灰褐色で腰が白い。雌は全体が褐色であり特徴がない。体色は個体変異が多い。

**[選定理由]** 広大なヨシ原に生息し、繁殖しているが個体数は少ない。

**[分布と生態の概要]** ロシアのアムール川流域、サハリンで繁殖、冬期は日本・韓国・東南アジアへ渡る。日本では北海道と本州の一部で少数が繁殖しているが、大部分は冬鳥として各地のヨシ原などに出現する。県内では日本海側では屏風山地域や岩木川下流部のヨシ原、太平洋側では小川原湖を中心とする湖沼群・湿地のヨシ原で少数が繁殖している。一般にススキやヨシの株間に営巣するが、北海道ではササ原にも営巣する（樋口ら, 1999）。湖沼・河川・ヨシ原・耕地の上を翼をV字形にして飛び、ネズミ・小鳥・カエル・昆虫などを食べる。天敵にイタチがある（西出, 1979）。

**[特記事項]** 日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。 (小山信行)

**タカ目 ハヤブサ科****B**

和名 ハヤブサ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

学名 *Falco peregrinus japonensis* Gmelin

**[形態的特徴]** 全長雄41cm、雌49cm。翼開長84～120cm。飛翔時、翼の先がとがり、頬にひげ状の黒斑がある。成鳥は頭・背・尾の上面が青黒色で、のどは白色が目立ち、腹部は白っぽく黒色の横斑がある。

**[選定理由]** 繁殖地が少なく、個体数が少ない種である。

**[分布と生態の概要]** ロシア東北部・カムチャツカ・サハリン・韓国・日本で繁殖。ロシアで繁殖するものは冬南へ渡る。日本では留鳥で、海岸の崖などで繁殖している。県内では海岸部の岩場や海に近い採石跡地で繁殖している。夏期に見られる場所は深浦町・中泊町小泊・青森市・下北半島等である。夏期は海岸付近に出現し、冬期は北からの移動個体も加わり、内陸の湖沼・河川・耕地・市街地にも出現する。飛ぶ鳥を捕食し、ツバメも捕食する（北山, 1996）。竜飛崎では毎年春秋に津軽海峡を渡るヒヨドリを追う姿が見られる。冬期、市街地ではカワラバトをねらう個体もある。

**[特記事項]** 国内希少野生動植物種、日米渡り鳥等保護条約・日露渡り鳥等保護条約指定種。 (小山信行)

**ツル目 クイナ科****B**

和名 クイナ

環境省：該当なし

学名 *Rallus aquaticus indicus* Blyth

**[形態的特徴]** 全長29cm、翼開長39cm。上面は褐色で黒色の縦斑がある。顔から胸は灰色、腹、脇から下尾筒に黒色と白色の横縞がある。くちばしが長くて赤い。

**[選定理由]** 湿地など生息地の減少から出現頻度が少なくなった。

**[分布と生態の概要]** ロシアのバイカル湖から極東・サハリン・北海道・本州北部で繁殖する。冬期は中国南部・韓国・本州中部以南で越冬する。県内では夏鳥で小川原湖周辺の湿地、十三湖南部の水田、岩木川下流部のヨシ原などに少数が生息する。湿地の草地に隠れて生活するので姿を見る機会が少ない。まれに雨上がりや増水の後に草の茂みから出て、農道や畦に出現することがある。

体形が左右から圧されたような扁平な体、頭部が小さく肩の張りが少なく、ヨシなど密生した草地をくぐり歩行するのに適した体形をしている。昆虫・カエル・小魚・草の種子などを食べる。

**[特記事項]** 日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。 (小山信行)

**チドリ目 チドリ科****B**

和名 イカルチドリ

環境省：該当なし

学名 *Charadrius placidus japonicus* Mishima

【形態的特徴】 全長21cm、翼開長45cm。目の前後と目先から前頭に至る黒紋があり、首と腹部は白色。胸に細い黒帯がある。くちばしはやや長く、足は淡黄色。

【選定理由】 各地の河川敷、湖畔岸で繁殖していたが、河川の改修・護岸工事などで生息数が減少した。

【分布と生態の概要】 亜種イカルチドリは日本全国で繁殖している。北海道では夏鳥で冬期は南日本で越冬する。県内でも主に夏鳥だが一部留鳥である。川原の砂礫地・湖沼畔・ダム湖の砂泥地などに生息する。河川では中流以上の砂礫地で繁殖するものが多い。繁殖期はなわばり主張や求愛のため、“ピオピオ、ピッピッピッピッ”とせわしなく鳴きながら飛び回るので、存在確認が容易である。抱卵期・育雛期に外敵が接近すると、擬傷といわれる行動をする。親鳥は翼を半開きに引きずり怪我した仕草で外敵の注意を引きつけて遠くへ導く。

【特記事項】 日本特産の亜種である。

(小山信行)

**チドリ目 チドリ科****B**

和名 ケリ

環境省：該当なし

学名 *Vanellus cinereus* (Blyth)

【形態的特徴】 全長36cm、翼開長85cm。頭から胸にかけて暗青灰色で胸に黒い帯がある。腹部と尾は白く、尾の先に黒帯がある。くちばしは黄色で先が黒く、足は黄色で長い。地上に静止する時はあまり目立たず、飛ぶと白と黒が目立つ。

【選定理由】 生息する湿地の減少にともない生息数が減少した。

【分布と生態の概要】 中国東北部と日本で繁殖。日本では本州北部など限られた地域で繁殖し、日本中部以南では冬鳥・旅鳥である。日本の生息地内では本県が北限、夏鳥でつがる市の池沼湿地、岩木川下流域の湿地や水田などに少数が生息・繁殖している。太平洋側では十和田市・八戸市で繁殖しているようである。津軽地方では3月下旬、まず雪消えの早い水田に小群が出現、消雪地の拡大と共に分散し、徐々に繁殖地へ移動する。繁殖期に外敵が接近すると、“ケリケリケリケリ”と飛びながら激しく鳴いて攻撃する。

【特記事項】 日露渡り鳥等保護条約指定種。

(小山信行)

**チドリ目 シギ科****B**

和名 サルハマシギ

環境省：該当なし

学名 *Calidris ferruginea* (Pontoppidan)

【形態的特徴】 全長22cm、翼開長44cm。夏羽では頭上から体の上面は暗紅褐色で、背に黒い縦斑があり、腰は白い。くちばしは黒色で細く長めでゆるやかに下に曲がり、足も黒い。冬羽では頭上・背・翼の上面は灰褐色、腹・腰は白色である。

【選定理由】 旅鳥として上北地方の海岸や河口干潟に飛来するが、出現がまれとなった。

【分布と生態の概要】 シベリア極北部・グリーンランドのツンドラ地帯で繁殖し、冬には南半球へ渡る。わが国には旅鳥として海岸や河口干潟に渡来するが数は多くない。県内には旅鳥として、春秋に干潟や河口、休耕田に1～数羽の群で出現する。餌は貝・ゴカイ・昆虫・ミミズなどである。採食時、くちばしは地面に対し斜めにすることが多い。

【特記事項】 日米渡り鳥等保護条約・日露渡り鳥等保護条約・日豪渡り鳥保護協定・日中渡り鳥保護協定指定種。

(小山信行)

**チドリ目 シギ科****B**

和名 キリアイ

環境省：該当なし

学名 *Limicola falcinellus sibirica* Dresser

【形態的特徴】 全長17cm、翼開長38cm。くちばしは比較的長く先がやや下に曲がっている。冬羽は、上面が灰褐色のまだら模様、背には淡い褐色の縦縞がある。腹部は白色。夏羽は全体に褐色味が増し、頭部は黒褐色に白い眉斑と白い頭側線が目立ち、黒と白の縞模様に見える。背は黒と褐色に白で縁取られる鱗模様、腹部は白く胸・脇に黒斑。

【選定理由】 出現がまれとなった。

【分布と生態の概要】 ロシアの極北部で繁殖し、冬期は南アジア・オーストラリアまで渡る。日本では、おもに秋に渡ってくる旅鳥で、干潟・河口などに出現する。県内では秋に干潟・河口・砂浜・休耕田などに飛来する。ハマシギ・トウネンなど小形のシギに混じり1羽で出現することが多い。水際で昆虫・甲殻類・ゴカイなどを食べる。

【特記事項】 日米渡り鳥等保護条約・日露渡り鳥等保護条約・日豪渡り鳥保護協定・日中渡り鳥保護協定指定種。 (小山信行)

**チドリ目 シギ科****B**

和名 アカアシシギ

環境省：絶滅危惧II類

学名 *Tringa totanus ussuriensis* Buturlin

【形態的特徴】 全長28cm、翼開長63cm。夏羽は頭から背・翼の上面が灰褐色で黒の斑がある。胸から腹部は白色に黒の縦斑、くちばしがほぼまっすぐで赤く先が黒い、足も赤く長い。冬羽ではくちばしが黒っぽくなり、頭上から体の上面は灰褐色で、下面は縦斑が少なくなり腹部は白い。足は橙赤色。

【選定理由】 個体数が減少し、出現がまれとなった。

【分布と生態の概要】 アジア中央部からロシア東部・サハリン・北海道の一部で繁殖し、冬期はアジア南部・東南アジアへ渡る。日本では主に旅鳥として渡来し、主として海岸近くの沼沢・海湾の干潟・海湾近くの湿地・河口の三角州・小池などに生息する。県内では、春秋の渡りの時期に太平洋側の休耕田・湖沼畔・船溜まりの緩斜面、津軽地方の湖沼地域や内陸部の水田・河川に少数が出現する。1～数羽で見られ昆虫や甲殻類などを食べる。

【特記事項】 日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。 (小山信行)

**チドリ目 シギ科****B**

和名 ダイシャクシギ

環境省：該当なし

学名 *Numenius arquata orientalis* Brehm

【形態的特徴】 全長60cm、翼開長89cm。くちばしが長く下に曲がった大形のシギ。体が灰褐色で頭部・首に細かい黒の縦斑、腹部・脇にやや大きい黒の縦斑が線状に並ぶ。飛ぶと腰の上部と翼下面が白く目立つ。尾は白く細い黒帯がある。くちばしは黒く、下側の基部は淡紅色。足は青灰色をしている。

【選定理由】 個体数が減少し、出現がまれとなった。

【分布と生態の概要】 ロシア南東部・中国北東部で繁殖し、冬には南アジア・アフリカに渡る。日本では旅鳥として海岸近くの干潟・河口・農耕地に渡来するが、本州中部以南の広い干潟では群れて越冬するものもある。県内では春秋の渡りの時期に、海岸の干潟、海に近い湖沼群の干潟、河川の下流部や河口にまれに出現する。カニ・ゴカイ・貝類などを食べる。

【特記事項】 日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。 (小山信行)

**チドリ目 シギ科****B**

和名 ホウロクシギ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

学名 *Numenius madagascariensis* (Linnaeus)

【形態的特徴】 全長62cm、翼開長100cm。日本最大のシギ。くちばしは105～190mmと長く下に曲がっている。体色は褐色味が強く、頭から腹が淡褐色で褐色の縦斑。腰と翼の下面は褐色である。足は青灰色。

【選定理由】 春秋の旅鳥として飛来するが、出現がまれとなった。

【分布と生態の概要】 ロシア東部・カムチャツカ・オホーツク沿岸・中国東北部・ウスリー地方で繁殖する。冬期には南アジア・ニューギニア・オーストラリアへ渡る。日本には、旅鳥として干潟・河口・農耕地などに渡来する。ダイシャクシギの群にまじることがあるが数は多くない。県内でも、旅鳥として春秋に各地の海湾の干潟・河口の干潟・湖沼畔に飛来するが単独でいることが多い。警戒心が強く容易に人を寄せ付けない。カニ・ゴカイ・貝類などを食べる。

【特記事項】 日米渡り鳥等保護条約・日露渡り鳥等保護条約・日豪渡り鳥保護協定・日中渡り鳥保護協定指定種。 (小山信行)

**チドリ目 シギ科****B**

和名 ヤマシギ

環境省：該当なし

学名 *Scolopax rusticola* Linnaeus

【形態的特徴】 全長35cm、翼開長61cm。首が短く、頭が大きく、くちばしはまっすぐで長い。体は太く赤褐色で、下面はやや淡く黒褐色の縞模様がある。額は灰色、頭の後に赤褐色で三本の黒い横帯がある。

【選定理由】 生息数が少なく、出現がまれである。

【分布と生態の概要】 ヨーロッパ・アジア大陸の温帯地域、サハリン、日本で繁殖。冬期は地中海沿岸、北アフリカ、インド、中国南部、東南アジア、日本南部に渡る。日本では、北海道から九州・伊豆諸島で繁殖し、北日本のものは冬期に暖かい地方へ移動する。県内では主に夏鳥だが一部越冬。各地の森林・湿地や溪流沿いに生息しているが、夜行性のこともあってあまり人目につかない。春、南から渡って来た個体が一時公園や人家の庭に出現することもある。水田や湿地、林地の湿地でミミズや昆虫、陸生貝などを食べている。

【特記事項】 日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。 (小山信行)

**チドリ目 シギ科****B**

和名 オオジシギ

環境省：準絶滅危惧

学名 *Gallinago hardwickii* (Gray)

【形態的特徴】 全長30cm、翼開長49cm。まっすぐで長いくちばし、頭部の黄白色の頭中央線・眉線・目の下の線と黒色の頭側線・過眼線・ほおの線が目立ち、背と肩羽は褐色の地に黒い斑紋がある。

【選定理由】 生息地の環境変化によって、出現数が減少している。

【分布と生態の概要】 ウスリー川南東部、サハリン南部、日本で繁殖。冬期はニューギニア、オーストラリア、タスマニアに渡る。日本には夏鳥として渡来し、本州中部では山地の草原・かん木の散在する高原・アカマツやカラマツの散在する草原などに生息し、本州北部や北海道では平地の草原・農耕地・湿地などに生息する。県内では夏鳥として渡来し、各地の農耕地や草原、牧草地に生息、繁殖している。繁殖期には飛びながら“ズビャーク、ズビャーク”と鳴き、“ガガガガ”と尾羽で風切音を出す。近年、岩木山麓原野では畑地化が進み、出現数が激減している。

【特記事項】 日露渡り鳥等保護条約・日豪渡り鳥保護協定指定種。 (小山信行)

**チドリ目 シギ科****B**

和名 アオシギ

環境省：該当なし

学名 *Gallinago solitaria japonica* (Bonaparte)

【形態的特徴】 全長30cm、翼開長49cm。全体が灰褐色、背に白色と赤褐色の斑が散在し、白色の線が目立つ。背や翼が青灰色を帯び、飛び立った時、一瞬、緑っぽさを感じる（柳澤, 1988）。

【選定理由】 冬鳥として、山地の溪流などに生息するが出現がまれである。

【分布と生態の概要】 アジア大陸の中東部で繁殖し、冬には南アジア・日本に渡る。わが国では、冬鳥として山間の小川や溪流沿いの草むらに単独で生息している。草むらに潜んでいるので人目にふれる機会が少ない。県内でも冬鳥として少数が飛来し、下北半島・七戸町・弘前市などで出現記録がある。水中や泥の中にくちばしをさし込んで、ミミズ・昆虫・陸上貝類などを採餌する。

【特記事項】 日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

(小山信行)

**チドリ目 セイタカシギ科****B**

和名 セイタカシギ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

学名 *Himantopus himantopus himantopus* (Linnaeus)

【形態的特徴】 全長37cm、翼開長80cm。まっすぐで細長い黒いくちばし、淡い紅色で非常に長い足が特徴。胸・腹・腰は白色。頭部は白い個体から後頭が黒くなる個体まで変異がある。雄の夏羽は背や翼が緑色光沢のある黒で、雌の背や翼は褐色味を帯びる。冬羽は頭部が黒い個体では色が淡くなる。

【選定理由】 春秋の旅鳥として飛来するが、出現が少ない。

【分布と生態の概要】 ユーラシアの南部・中国北東部・日本の一部で繁殖し、冬は南部アジア・南半球に移動するものもある。日本では主に旅鳥として春秋に各地の海岸に近い水田や湿地・干拓地などに少数が渡来する。本州の一部で繁殖し、越冬するものもいる。県内では旅鳥として干潟・休耕田・河口などに少数が出現する。くちばしを水につけ首を左右に振りながら、小魚・昆虫・甲殻類などを食べる。

【特記事項】 日中渡り鳥保護協定指定種。

(小山信行)

**チドリ目 ツバメチドリ科****B**

和名 ツバメチドリ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

学名 *Glareola maldivarum* Forester

【形態的特徴】 全長26cm、翼開長64cm。飛んだ時尾が二股に分かれ、ツバメを大きくしたような形をしている。夏羽では上面が暗灰褐色、のどがクリーム色で黒線の縁どりがある。くちばしは黒く基部が赤い。冬羽ではのどのもようたくちばしの赤が不明瞭になる。幼鳥は冬羽に似る。

【選定理由】 旅鳥としてまれに出現する。

【分布と生態の概要】 モンゴル・中国東部・タイ・チベット・インド北部などで繁殖。日本南部でも局地的に少数が繁殖する。冬期は中国南部・マレー半島・ジャワ・ボルネオ・オーストラリアに渡る。日本では主に旅鳥として全国に少数が渡来し、畑・埋立地・川原・海岸など開けた場所に生息する。茨城・静岡・愛知・島根・福岡・宮崎などで局地的な繁殖記録がある。県内ではまれな旅鳥として太平洋岸の湖沼畔や海岸などで観察されている。

【特記事項】 日豪渡り鳥保護協定・日中渡り鳥保護協定指定種。

(小山信行)



**フクロウ目 フクロウ科****B**

和名 オオコノハズク

環境省：該当なし

学名 *Otus lempiji semitorques* Temminck et Schlegel

[形態的特徴] 全長24～26cm、翼開長54～60cm。体色は褐色または灰褐色で羽角がある。腹部には黒色の複雑で細かい虫食い斑がある。後頸部に灰白色の斑がある。目は橙色。飛翔時、翼の下面は淡褐色で風切に黒い横斑があり、初列風切の外側は暗色である。

[選定理由] 近年、出現がまれとなった。

[分布と生態の概要] サハリン・千島列島・日本・韓国で繁殖。社寺林など平地から山地の暗い林に生息し個体数は少ない。留鳥で山林・社寺林の樹洞で繁殖するが人目につくことはまれである。冬期は人里・耕地付近の林に生息し、人家や古い作業小屋に入り込むこともある。ネズミ・小鳥・カエル・昆虫などを食べる。4、5月と11月によく鳴き、“クゥー”または“クウィー”という鳴き声は防衛や雌雄のコミュニケーションに用いられ、雄が巣に近づくときは、“ウォン・ウォン”と鳴き、ネコのように“ミュウ・ミャウ”と鳴くこともある。(Higuchi & Momose, 1980)。

[特記事項] 日露渡り鳥等保護条約指定種。

(小山信行)

**フクロウ目 フクロウ科****B**

和名 アオバズク

環境省：該当なし

学名 *Ninox scutulata japonica* (Temminck et Schlegel)

[形態的特徴] 全長27～31cm、翼開長66～71cm。羽角がなく尾羽が長い。頭部から背・翼・尾の上面は黒褐色で尾に黒帯がある。目は金色。胸部から腹部は白地に黒褐色の太い縦斑がある。飛翔時の翼の下面は白色に黒褐色の横斑がある。

[選定理由] 近年、出現がまれとなった。

[分布と生態の概要] 日本・韓国で繁殖。冬期はマレー半島・フィリピン・大スンダ列島・スラウエシ島に渡る。夏鳥で、日本各地の平地から低山にある大木の混じる林に生息し繁殖する。集落や市街地の社寺林、公園の林、防風林などでも樹洞に営巣する。初夏に“ホッホー、ホッホー”と2回ずつ繰り返し鳴く。かつて弘前市で、観光のため夜間照明された五重の塔の屋根で夜通し鳴くものもあった。昆虫が主食で、市街地では公園などの街灯に集まる蛾をねらい周囲を飛び回る。

[特記事項] 日露渡り鳥等保護条約指定種。

(小山信行)

**ヨタカ目 ヨタカ科****B**

和名 ヨタカ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

学名 *Caprimulgus indicus jotaka* Temminck et Schlegel

[形態的特徴] 全長29cm、翼開長61cm。全体が黒褐色で褐色・黒・白の複雑な模様に覆われている。肩羽の灰白色が目立つ。雄は目の下、のど、翼の先、外側尾羽の先端に白斑がある。雌は外側尾羽に白斑がなく、のどや翼の白斑は不明瞭である。

[選定理由] 夏鳥として各地に生息するが、近年出現個体が少なくなった。

[分布と生態の概要] バイカル湖からアムール流域、ウスリー川地方から中国南部まで、朝鮮・日本で繁殖。冬期はインドネシア・マレーシアなどに渡る。日本では夏鳥として全国で繁殖する。県内では5月に渡来し、山地の林地・伐採跡地・原野に広く生息し、繁殖期には“キョキョキョキョキョ・・・”と連続する特徴ある鳴き声で鳴く。夜行性で夜飛ぶガの通路となる林道や公道上で採餌中に走行する車に轢かれるものもある。山地の公園などでは外灯に集まる昆虫を飛びながら捕食する。巣は作らず、地上に直接産卵・抱卵する。昼は太い枝に体を平行にして、伏せるように止まり休む。

[特記事項] 日米渡り鳥等保護条約・日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

(小山信行)

**ブッポウソウ目 カワセミ科****B**

和名 アカショウビン

環境省：該当なし

学名 *Halcyon coromanda major* (Temminck et Schlegel)

[形態的特徴] 全長28cm、翼開長40cm。全体が赤褐色で光線の当たり方で羽の表面が紫色に輝く。腰に空色の斑がある。くちばしは赤色で太く大きく、足も赤色で小さい。

[選定理由] 暗い森林と水辺がそろった限られた環境に生息し、近年少なくなった。

[分布と生態の概要] 中国北東部・韓国・日本で繁殖。冬期はフィリピンやスラウェシ島に渡る。県内では夏鳥で十二湖・白神山地・十和田八幡平国立公園・津軽半島・下北半島などの湖沼・溪流近くの大樹が茂る森林に生息。近年、県民の森梵珠山にも出現。朝夕、霧の日、雨もようの日に“キョロロ・キョロロロ……”とよく鳴く。魚・サワガニ・カエル・カタツムリ・昆虫などを食べる。土手・土の崖、朽ち木に穴を掘って営巣する。森の樹間を縫って直線的に飛ぶ。

[特記事項] 雨もよう、曇天の日によく鳴くため‘雨乞い鳥’、農作物の不作と関連させ‘けがぶどり’ともいわれた。日中渡り鳥保護協定指定種。

(小山信行)

**ブッポウソウ目 ブッポウソウ科****B**

和名 ブッポウソウ

環境省：絶滅危惧ⅠB類

学名 *Eurystomus orientalis calonyx* Sharpe

[形態的特徴] 全長29cm、翼開長71cm。ハトよりやや小形、羽が長く飛ぶと大きく感じる。頭は大きく平たく、くちばしは頑丈で基部の幅は広い。頭部は黒色、体は緑青緑色。止まっている時は赤色のくちばしと足が目立つ。飛翔時、翼にある白斑が目立つ。

[選定理由] 近年は出現がまれとなった。

[分布と生態の概要] インド北部から中国・韓国・日本で繁殖。冬期は東南アジア等に渡る。県内では夏鳥で白神山地・十和田八幡平国立公園などの山林に生息するが個体数は少ない。大きな枯れ木付近で“ゲツゲツ”と大きな声で鳴きながら飛び回る。樹洞で営巣する。よくキツツキ類の巣穴を利用するが、白神山地ではクマゲラの古巣にも営巣する。主に昆虫を食べる。

[特記事項] コノハズクを‘声の仏法僧’というのに対し、ブッポウソウを‘姿の仏法僧’という。日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

(小山信行)

**スズメ目 サンショウクイ科****B**

和名 サンショウクイ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

学名 *Pericrocotus divaricatus divaricatus* (Raffles)

[形態的特徴] 全長20cm、翼開長28cm。背面が灰色、喉から腹部は白色。尾が長く上面が黒色。くちばしから目を通る黒色の線がある。くちばしと足は黒色。

[選定理由] 近年生息数が減少し、まれにしか見られなくなった。

[分布と生態の概要] 中国北東部・日本で繁殖。冬は東南アジアなどに渡る。日本では本州以南に夏鳥として渡来する。北海道には迷鳥としてまれに出現する。県内では夏鳥として津軽地方の広葉樹林に生息するが個体数は少ない。太平洋側では旅鳥的な出現である。深浦町岩崎の十二湖周辺では比較的多く出現する。“ヒリヒリン・ヒリヒリン”と続けて鳴きながら、ゆるい波形を描いて飛ぶ。高い木の梢に止まることが多い。

[特記事項] サンショウクイの名はヒリヒリと鳴くことから、植物のサンショウを食うの意である。しかし、実際は昆虫を主食としサンショウは食べない。日中渡り鳥保護協定指定種。

(小山信行)

**スズメ目 カササギヒタキ科****B**

和名 サンコウチョウ

環境省：該当なし

学名 *Terpsiphone atrocaudata atrocaudata* (Eyton)

【形態的特徴】 全長雄45cm・雌18cm、翼開長、雄30cm。雄の尾は黒色で中央尾羽が大変長い。雌の尾は黒色で雄ほど長くない。雌雄とも頭部から胸部は紫黒色で後頭に短い冠羽があり、腹部は白色で、くちばしとアイリングがコバルト色。雄の背・翼の上面は紫褐色、雌のそれは赤褐色。

【選定理由】 夏鳥として各地に渡来するが、出現個体が少ない。

【分布と生態の概要】 本州から九州まで繁殖、北海道は迷鳥として出現する。冬期は東南アジアに渡る。県内では5月頃、夏鳥として渡来し、低山帯の林地、耕地のスギ防風林、ヤナギの河畔林などでさえずりを聞くがまれである。また、生息地・繁殖地は一定しない。

【特記事項】 さえずりの“ヒイー ツー チー・ホイホイホイ”は「月・日・星」と言葉におきかえられ、三光鳥と呼ばれる。日中渡り鳥保護協定指定種。

(小山信行)

**スズメ目 ホオジロ科****B**

和名 コジュリン

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

学名 *Emberiza yessoensis yessoensis* (Swinhoe)

【形態的特徴】 全長15cm。雄の夏羽根では頭部からのどは黒く、背は赤褐色で黒い縦じま模様がある。腹は白くて、腰は赤褐色をしている。雌は頭部が黒褐色でほぼが淡褐色、ほぼの上にある線はバフ色、のどは白く黒い顎線がある。雄の冬羽は頭の黒がなくなり、雌の夏羽に似る。

【選定理由】 湿地付近の草地が減少し、生息個体数が少ない。

【分布と生態の概要】 日本の本州と九州で繁殖。北海道・千島列島南部でも出現記録がある。東北北部では、夏鳥として平地の草原やかん木の散在する草原に生息する。冬期は温暖な本州中部以南のヨシ原や草原に生息する。県内では岩木川下流部、山田川中流部、鳥谷川下流部、屏風山地域の草原、小川原湖周辺の湿地・草地などに生息する。繁殖期には植物の高いところに止まり、“ピーツピーツツクチュピー”と涼しい声でさえずり、昆虫や植物の種子などを食べている。

【特記事項】 津軽地方の一部では近年個体数増加があり、休耕田などで出現が目立ってきた。

(小山信行)

**スズメ目 ホオジロ科****B**

和名 オオジュリン

環境省：該当なし

学名 *Emberiza schoeniclus pyrrhulina* (Swinhoe)

【形態的特徴】 全長16cm、翼開長25cm。雄の夏羽では黒い頭部とくちばし基部からのどの間に白いほお線が特徴。首の後ろは白く、背は赤褐色に黒の縦じま模様がある。腰は灰褐色で腹は白い。雌は頭部、ほおが褐色で淡い眉斑があり、黒い顎線がある。

【選定理由】 限られた低地のヨシ原に生息し、個体数が少ない。

【分布と生態の概要】 カムチャツカ・千島列島・サハリン・アムール流域・ウスリー流域・北海道・本州北部で繁殖。低地のヨシ原に生息し、冬期は積雪の少ない温暖な地方のヨシ原や草原で越冬する。県内では小川原湖周辺や岩木川下流部のヨシ原に少数が生息、繁殖している。岩木川下流部では近年個体数が減少し、繁殖期には出現がまれとなった。渡りの時期には各地の河川敷、農道など小面積のヨシ原にも出現する。繁殖期には“チュイーチュイー、チューリン”とゆったりとさえずる。昆虫や植物の種子などを食べる。

【特記事項】 日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

(小山信行)

**カイツブリ目 カイツブリ科****C****和名** カンムリカイツブリ**環境省**：絶滅のおそれのある地域個体群（青森県）**学名** *Podiceps cristatus cristatus* (Linnaeus)

全長56cm、翼開長85cm、首が長く前面が白、日本最大のカイツブリ。目先に口ばしと結ぶ黒い線。夏羽は黒い冠羽と顔に赤褐色と先端の黒い飾り羽が特徴。冬羽では顔に飾り羽がなく、首前方の白と首後方の黒が目立つ。

ヨーロッパからアジア東部まで広く分布、南半球のオーストラリア、ニュージーランドにも留鳥として生息する。日本では主に冬鳥として九州以北の湖沼、河川、海上などに渡来し、北日本の一部で繁殖している。県内では各地で繁殖し、特に津軽地方の湖沼、河川で個体数増加、生息分布域の拡大が著しい。日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。 (小山信行)

**カモ目 カモ科****C****和名** コクガン**環境省**：絶滅危惧II類**学名** *Branta bernicla orientalis* Tugarinov

全長61cm、翼開長115cm、小形のガンで全体が黒い。白い首輪、腹部側面と下尾筒の白が特徴。

北極圏のツンドラ地帯で繁殖し、日本には冬鳥として渡来し、北日本の限られた湾や内海に生息する。県内では陸奥湾のむつ市大湊海岸・青森市原別海岸・横浜町横浜海岸、八戸市種差海岸が主な生息地である。津軽半島上磯海岸、下北半島大畑海岸にも少数渡来し、日本海岸にも出現するがまれである。主として海上、海磯、海岸の荒磯、海岸の浅瀬に生息し、時に河川、湖沼や干潟などに飛来する。国の天然記念物。日米渡り鳥等保護条約・日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。 (小山信行)

**カモ目 カモ科****C****和名** マガン**環境省**：準絶滅危惧**学名** *Anser albifrons frontalis* Baird

全長72cm、翼開長138cm、中形のガンで暗褐色の体色、成鳥は桃橙色のくちばしとそのつけ根の白が特徴。“カハハン、カハハン、クワワワ”と鳴く。

北極圏の湿原で繁殖し、日本には冬鳥として渡来する。県内では越冬個体は少なく、春と秋の渡りの中継地、休息地として立ち寄るものが多い。海岸部では大湊湾や浅所海岸、内陸部では各地の湖沼、溜池、湿原、刈り取り後の水田、休耕田に出現し、休息、採餌する。

国の天然記念物。日米渡り鳥等保護条約・日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

(小山信行)

**カモ目 カモ科****C****和名** オオヒシクイ**環境省**：準絶滅危惧**学名** *Anser fabalis middendorffii* Severtzov

ヒシクイよりやや大形のガン。ヒシクイによく似ているが首が長く、くちばしがほっそりし、黒いくちばし先の黄色が特徴。“ガハハーン”と太く低い声で鳴く。

アジア北部のタイガ地帯で繁殖し、日本には冬鳥として渡来、宮城県伊豆沼などで越冬する。

県内では越冬個体は少なく、春秋の渡り時に休息地、採餌場所として立ち寄るものが多い。マガンと同様、大湊湾や浅所海岸、各地の湖沼、溜池、湿原、水田、休耕田で休息、採餌する。警戒心が強く、休息、採餌には他のガン類と同様、見通しのよい場所を選ぶ。採餌、休息、ねぐらとなる湖沼、溜池などの保全が必要である。 (小山信行)

**カモ目 カモ科****C**

和名 ヒシクイ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

学名 *Anser fabalis serrirostris* Swinhoe

全長85cm、翼開長160cm、大形のガンで黒褐色の体色、黒いくちばし先の黄色が特徴。“ギャハーン”と鳴く。

ヨーロッパ・アジア北部のツンドラ地帯で繁殖し、日本には冬鳥として渡来する。県内では越冬個体は少なく、渡りの中継地、休息地として立ち寄るものが多い。マガンと同様、大湊湾や浅所海岸、各地の湖沼・溜池・湿原・水田・休耕田などで休息、採餌する。まれに山地のダム湖で休息する。春秋の渡り時には20～50羽の群が白神山地上空、市街地上空を編隊を組んで渡るのが見られる。

国の天然記念物。日米渡り鳥等保護条約・日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

(小山信行)

**カモ目 カモ科****C**

和名 トモエガモ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

学名 *Anas Formosa* Georgi

全長40cm、翼開長67cm、小形のカモで、雄は顔の黒緑色とクリーム色のともえ模様が特徴。

シベリア東部で繁殖し、日本には冬鳥として少数渡来し、湖沼、池、沼沢、湿地の草原、水田、河川、港湾などに生息する。県内では越冬個体はなく春秋の渡り時、他のカモ類と混じりまれに渡来する。大群のカモ類に混じり1羽で出現することが多く見逃される場合が多い。つがる市森田の狄ヶ館溜池では春の渡り時に数羽～数十羽の群で出現することがある。

日米渡り鳥等保護条約・日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。(小山信行)

**カモ目 カモ科****C**

和名 ヨシガモ

環境省：該当なし

学名 *Anas falcata* Georgi

全長48cm、翼開長80cm、中形のカモ。成鳥雄の頭部は紅紫色と緑色の光沢のある黒色で、ナポレオンの帽子のような後方に伸びる冠羽、のどの白と黒い横線が特徴。

北海道以北で繁殖し、本州以南には冬鳥として渡来する。浅い海湾に多く、海岸の干潟・湖沼・池・水田・沼沢などにも生息する。県内では春期に見ることが多い。十三湖西の明神沼、小川原湖沼群など限られた水辺に出現するが個体数は少ない。狩猟鳥であるが生息数が減少しているため、青森県では捕獲の自粛を指導している。

日米渡り鳥等保護条約・日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。(小山信行)

**カモ目 カモ科****C**

和名 オカヨシガモ

環境省：該当なし

学名 *Anas strepera strepera* Linnaeus

全長50cm、翼開長89cm、中形の地味な色彩のカモ。雄は体が灰色で尻が黒い。雌雄とも飛んだとき次列風切の白色が特徴。

ヨーロッパ・アジア・北アメリカ大陸の中部で繁殖し、日本には冬鳥として少数が渡来する。

湖沼・沼沢・河川・水田・湿地に生息する。少数は北海道でも繁殖する。

県内には主に春秋の渡り時に少数が出現する。八戸市の馬淵川・新井田川河口では毎年少数越冬することが知られている。その他各地の水辺に出現するが、目立たないため記録されないことが多いようである。

日米渡り鳥等保護条約・日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。(小山信行)

**カモ目 カモ科****C**

和名 シマアジ

環境省：該当なし

学名 *Anas querquedula* Linnaeus

全長38cm、翼開長61cm、小形のカモで旅鳥。雄は赤褐色の顔に太く白い眉斑が目立つ。

ヨーロッパ・アジア大陸中部で繁殖、冬期はアジア南部・アフリカ中部に渡る。日本には渡りの時期に湖沼・河川・海岸などの水辺に生息する。県内では春秋、少数が各地の湖沼、河川などに出現するが、春に繁殖羽となり雄の白い眉斑が目立つことから春期出現の記録が多い。三沢市仏沼で繁殖の記録がある。コガモの群れに混じることが多く、水面に浮かぶ植物質のものを採餌し、干潟では貝類を食べる（日本野鳥の会青森県支部・弘前支部, 2001）。日米渡り鳥等保護条約・日露渡り鳥等保護条約・日豪渡り鳥保護協定・日中渡り鳥保護協定指定種。 (小山信行)

**カモ目 カモ科****C**

和名 ハシビロガモ

環境省：該当なし

学名 *Anas clypeata* Linnaeus

全長雄51cm、雌43cm、翼開長雄84cm、中形のカモで大きく幅広で先がスコップ状のくちばしの特徴。

シベリア東北部で繁殖し、日本には冬鳥として渡来し、海湾、湖沼、河川などに生息する。

県内では湾内、湖沼、河川、水田など広範な水辺に他のカモ類に混じり少数が出現する。狩猟鳥であるが生息数が減少しているため、青森県では捕獲の自粛を指導している。

日米渡り鳥等保護条約・日露渡り鳥等保護条約・日豪渡り鳥保護協定・日中渡り鳥保護協定指定種。 (小山信行)

**カモ目 カモ科****C**

和名 ビロードキンクロ

環境省：該当なし

学名 *Melanitta fusca stejnegeri* (Ridgway)

全長雄58cm、雌50cm、翼開長雄100cm、黒いカモで次列風切が白く、雄は目の下にあるどすのきいた三日月形白斑が特徴。

シベリア東北部で繁殖し、日本には冬鳥として渡来し、海洋・外海・海湾などに生息する。

県内では主に太平洋沿岸に少数が出現、越冬している。日本海沿岸にも出現するがまれである。海ガモのクロガモと一緒にいることが多く、浅海で貝類を食べる。

日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。 (小山信行)

**カモ目 カモ科****C**

和名 コオリガモ

環境省：該当なし

学名 *Clangula hyemalis* (Linnaeus)

雄は全体が白っぽく、長い尾羽のため全長は約60cm。雌は全体が黒褐色で約38cm。

ユーラシア北部・北アメリカ北部等の極北部で繁殖、カムチャツカ半島から中国北東部沿岸・アリューシャン列島から北アメリカ西海岸・イギリスや北海沿岸等で越冬する。国内へは冬鳥として北海道と本州北部の海上や沿岸に渡来するが、本州北部では少ない。県内では、陸奥湾や太平洋沿岸の一部で1～数羽が見られる。

かつてはごく少数が毎年渡来していたが、近年は出現頻度が減少した。沿岸部の開発等が生息環境に影響を及ぼす可能性があり、保護区等に指定し環境保全の必要がある。 (阿部誠一)

**タカ目 タカ科****C**

和名 ハチクマ

環境省：準絶滅危惧

学名 *Pernis apivorus orientalis* Taczanowski

全長雄57cm・雌61cm、翼開長121~135cm。トビより少し小さい。飛んでいる時首が長く見え、翼・尾に横の黒帯が目立つ。体色の変異が大きく暗色形、淡色形、中間形がある（森岡ら, 1995）。

ロシア南部、エニセイ川からアムール流域・ウスリー地方・朝鮮・日本で繁殖。冬期は亜熱帯、熱帯地方に渡る。日本では夏鳥で各地の低山地帯に少数が生息する。県内では太平洋側より日本海側の山地に多く出現する。5月中下旬に渡来し繁殖期は他のタカ類より遅い。6月に求愛の波状飛行、両翼をV字状にした停空飛行がよく見られる。クロスズメバチなどのハチやカエル・ネズミ・小鳥を食べる。ハチクマはハチを食べるクマタカの意である。（小山信行）

**タカ目 ハヤブサ科****C**

和名 チゴハヤブサ

環境省：該当なし

学名 *Falco subbuteo subbuteo* Linnaeus

全長34~35cm、翼開長72~84cm。ハト大の小形のハヤブサである。頬にひげ状の黒斑、後頸に2個の白い眼状紋、れんが色の足の付け根と腰が特徴。

亜種チゴハヤブサは中国北部及び東部・北ミャンマー・北インドネシア・北日本で繁殖し、冬期は東南アジア、ジャワ島に渡る。県内では夏鳥で4月下旬から5月上旬に渡来、各地の集落、市街地の寺社林や公園の林・農耕地の防風林等で少数が繁殖している。独自の巣は作らず6月上旬頃からカラスやトビの古巣を利用して営巣、育雛し、10月下旬~11月上旬に渡去する。餌はズメ、カワラヒワ、逃げた飼鳥インコ等の小鳥、コウモリ、昆虫などである。日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。（小山信行）

**タカ目 ハヤブサ科****C**

和名 コチョウゲンボウ

環境省：該当なし

学名 *Falco columbarius* Linnaeus

全長は、雄が約28cm、雌が約32cm。雄は頭部と背部の上面は青灰色で、胸部から下面は橙褐色で黒色の縦斑がある。雌は上面が灰褐色で、胸部は暗褐色である。

北アメリカ北部・ユーラシア北部で繁殖し、アフリカ北部・インド・中国東南部・北アメリカ中南部で越冬する。国内へは冬鳥として渡来するが多くない。県内では河川敷・農耕地・干拓地等にごく少数が渡来する。おもに小鳥類を採食するが小型哺乳類や昆虫類も食べる。

農耕地や河川敷等の開発や河川改修等の工事により環境悪化が進むと同時に、生息地が減少、消滅している。保護区等に指定したり、環境に配慮した工事等の対策が必要である。（阿部誠一）

**タカ目 ハヤブサ科****C**

和名 チョウゲンボウ

環境省：該当なし

学名 *Falco tinnunculus interstinctus* McClelland

全長雄33cm、雌39cm。翼開長69~76cm。小形のハヤブサで尾が長く数本の細い横縞と先端に黒い広い帯がある。ヒマラヤ地方、中国、朝鮮、日本、北ミャンマー、北インドネシアで繁殖、冬期はインド、マレー半島、北インドネシアに渡る。日本では近年、全国的に人工的建造物で繁殖する例が増え、県内でも同様である。県内では留鳥で各地の里山、耕地、河川、市街地に出現するが個体数は少ない。まれに岩木山等、標高の高い山地に出現し、上昇気流で吹き上げられた昆虫や尾根越えする小鳥をねらう。稲穂を貯蔵するカントリーエレベーター付近には年中見られ、農耕地や河川敷、農道やバイパス近くの電線、樹木、標識に止まり、上空を帆翔・停空飛行する。（小山信行）

**キジ目 キジ科****C**

和名 ヤマドリ

環境省：該当なし

学名 *Syrmaticus soemmerringii scintillans* (Gould)

全長雄125cm、雌55cm。雄は赤銅色の体に褐色と白の縞模様の長い尾。雌は腹部が茶と白の鱗斑があり尾は雄より短い。

日本特産種、日本に5亜種ある中で一番北に分布する亜種。関西以北に分布し本県が分布の北限。主に標高1,500m以下の山地に生息する。針葉樹林・落葉広葉樹林・混交林などに広く生息し、厳寒の頃には標高の低い人里にも出現する。

日本の国鳥で、雌の猟は禁じられているが雄は狩猟鳥に含まれている。種の保全上狩猟鳥から除外が望まれる。

(小山信行)

**ツル目 クイナ科****C**

和名 バン

環境省：該当なし

学名 *Gallinula chloropus indica* Blyth

全長32cm、翼開長52cm、全体が黒く、下尾筒の白、くちばしと額板の赤が特徴。水を泳ぐが水掻きがない。インド・スリランカからインドネシア・中国東部・朝鮮・日本で繁殖。冬期は中国南部、東南アジアへ渡る。日本全国に生息し、本州南部では留鳥、県内では夏鳥で冬は積雪の少ない地方へ移動する。湖沼、河川、水田、公園の壕など各地の水辺に生息繁殖している。近年個体数が減少し、公園の壕、町中や集落付近の水辺に出現することはまれとなった。公園の壕など町中の水辺からの退去は、環境整備による身を隠す水生植物の減少、営巣適地の減少とカラスの捕食圧によるものと考えられる。日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

(小山信行)

**チドリ目 チドリ科****C**

和名 タゲリ

環境省：該当なし

学名 *Vanellus vanellus* (Linnaeus)

全長32cm、翼開長84cm、頭に黒く後ろに伸びた冠毛と胸の太い黒帯が特徴。白、黒が目立つ幅広いの翼でゆったりと飛ぶ。

ヨーロッパからアジアに広く分布繁殖し、日本には冬鳥として渡来、雪の少ない地方の水田・河川、湖沼などの湿地で越冬する。北陸地方や関東北部で繁殖記録がある。

県内には春と秋に旅鳥として出現し、各地の水田、休耕田、河川敷、湖沼の湿地に生息するが個体数は少ない。日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

(小山信行)

**チドリ目 シギ科****C**

和名 ヒバリシギ

環境省：該当なし

学名 *Calidris subminuta* (Middendorff)

全長約14cm。夏羽では頭部と上面は茶褐色。胸部と脇は黒褐色の縦斑がある。冬羽は上面が灰褐色になる。くちばしは細く黒い。足は黄緑色。

シベリアからカムチャツカ半島で繁殖し、オーストラリアや東南アジアで越冬する。国内へは旅鳥として春と秋に渡来する。沖縄県では少数が越冬する。県内には水田・湿地・埋立地等にごく少数が渡来する。1～数羽で行動し、甲殻類や昆虫類を採食する。

生息地である湿地・水田等が開発等により減少したり消滅している。近年、出現頻度が減少している。保護区等に指定して、生息環境を保全する必要がある。

(阿部誠一)



**チドリ目 シギ科****C**

和名 オジロトウネン

環境省：該当なし

学名 *Calidris temminckii* (Leisler)

全長約14cm。夏羽では頭部から上面が灰褐色で黒い軸斑と淡橙色の羽縁が目立つ。冬羽は一樣に灰褐色になる。くちばしは黒く、足は黄緑色。

ユーラシアの北部で繁殖、アフリカ東部・インド・東南アジアで越冬する。国内へは旅鳥として春と秋に渡来するが少ない。本州中部以南では越冬するものもある。県内では湿地・水田・湖沼の岸などにごく少数が渡来する。甲殻類や昆虫類などを採食する。

生息地である湿地や湖沼の岸等が開発等により減少したり消滅している。近年、出現頻度が減少している。保護区等に指定し、生息環境を保全する必要がある。(阿部誠一)

**チドリ目 シギ科****C**

和名 ウズラシギ

環境省：該当なし

学名 *Calidris acuminata* (Horsfield)

全長約22cm。夏羽では頭頂部の茶褐色が目立つ。冬羽は頭頂部の茶褐色が少し淡くなる。くちばしは先部は黒く、基部は淡色。足は黄緑色。

シベリア北部で繁殖、オーストラリア・ニュージーランド等で越冬する。国内へは旅鳥として春と秋に渡来するが多くない。県内には水田・湿地・池や沼等の湿泥地等に少数が渡来する。甲殻類・貝類・昆虫類などを採食する。

生息地である水田や湿地等が開発等により減少したり消滅している。近年、出現頻度が減少している。保護区等に指定し、生息環境を保全する必要がある。(阿部誠一)

**チドリ目 シギ科****C**

和名 コオバシギ

環境省：該当なし

学名 *Calidris canutus rogersi* (Mathews)

全長約24.5cm。夏羽では顔から胸部まで赤褐色でよく目立つ。頭部から背面は赤褐色と黒と白のまだら模様。くちばしは黒く基部は太め、足は緑黄色。

シベリア北部・北アメリカ北部等で繁殖、国内へは旅鳥として春と秋に渡来するが数は少ない。県内では水田・干潟・河口・海岸等にまれに渡来する。1～数羽で行動し、ゴカイ類や甲殻類などを採食する。

生息地の水田・干潟・河口等が開発等により減少したり消滅している。近年、出現頻度が減少している。保護区等に指定し、生息環境を保全する必要がある。(阿部誠一)

**チドリ目 シギ科****C**

和名 オバシギ

環境省：該当なし

学名 *Calidris tenuirostris* (Horsfield)

全長約28cm。夏羽は上面が黒褐色で肩には赤褐色の斑がある。胸部は黒褐色の縦斑がよく目立つ。冬羽は頭部・胸部・上面が灰褐色になる。くちばしは黒色で足は暗緑黄色。

シベリア東北部で繁殖、インド・東南アジア・オーストラリアで越冬する。国内へは旅鳥として春と秋に渡来する。県内では水田・河口・干潟・海岸等に少数が渡来する。小群で行動し貝類・ゴカイ類・甲殻類などを採食する。

生息地である水田・河口・干潟・海岸などが開発等により減少したり消滅している。近年、出現頻度が減少している。保護区等に指定し、生息環境を保全する必要がある。(阿部誠一)

**チドリ目 シギ科****C**

和名 ソリハシシギ

環境省：該当なし

学名 *Xenus cinereus* (Guldenstädt)

全長23cm。夏羽では頭部から上面が灰褐色になる。くちばしは黒く長めで上に反り基部は橙黄色で、足は短めで橙黄色。

ユーラシア北部で繁殖、アフリカ・東南アジア・オーストラリア等で越冬する。国内へは旅鳥として春と秋に渡来する。県内には水田・干潟・砂浜・河口等に渡来するが数は少ない。1～数羽で行動し、甲殻類や昆虫類などを採食する。

生息地である水田・干潟・砂浜・河口等が開発等により減少したり消滅している。近年、出現頻度が減少している。保護区等に指定し、生息環境を保全する必要がある。(阿部誠一)

**チドリ目 シギ科****C**

和名 オグロシギ

環境省：該当なし

学名 *Limosa limosa melanuroides* Gould

全長38cm。夏羽では頭部から胸部が赤褐色で目立つ。くちばしは太く長く淡い紅色で先は黒い。足は黒く、尾羽は白く先は黒い。

ユーラシアの中部から北部で繁殖、アフリカ・インド・オーストラリアで越冬する。国内へは旅鳥として春と秋に渡来するが多くない。県内では水田・湿地・干潟・河口等に渡来するが少ない。1～数羽で行動しゴカイ類・貝類・甲殻類などを採食する。

生息地である水田・湿地・干潟等が開発等により減少したり消滅している。近年、出現頻度が減少している。保護区等に指定し、生息環境を保全する必要がある。(阿部誠一)

**ハト目 ハト科****C**

和名 アオバト

環境省：該当なし

学名 *Sphenurus sieboldii sieboldii* (Temminck)

全長33cm、翼開長55cm、緑色のハト。雄は肩が栗茶色。

日本全国の山深い森林地域に生息する。本州中部以南では留鳥、県内では夏鳥で冬は積雪の少ない南日本へ移動する。白神山地、津軽半島、十和田国立公園、下北半島などブナ、ミズナラなどの混じる各地の森林に広く生息しているが個体数は少ない。白神山地に含まれる西目屋村の目屋ダムとこれと関連する河川流域は出現頻度が高い。“アオー、アオー”と不気味な声でさえずり、森林中での生息確認はこの鳴き声の主である。海水を飲む習性があり、西海岸や下北半島などの海辺の岩礁地帯に20～50個体の群で出現する。(小山信行)

**カッコウ目 カッコウ科****C**

和名 ジュウイチ

環境省：該当なし

学名 *Cuculus fugax hyperythrus* Gould

全長32cm、翼開長56cm。頭と背が黒く、胸から腹が褐色で首の後に白斑。腹には横縞がない。“ジュウイチー・ジュウイチー・ジュウイチー、ジユクジユクジユク”と昼夜鳴く。

ロシア東南部、中国東部、東南アジアに生息。日本全国に夏鳥として渡来、山林に生息し、冬は東南アジアに渡る。県内では5～7月各地の山林で鳴き声を聞くが、近年出現頻度が減少している。コルリ・オオルリ・コマドリ・ルリビタキ・キビタキ・ビンズイ・クロツグミ・アカハラ・コサメビタキなどに托卵することが知られている(清棲, 1978b)。日米渡り鳥等保護条約・日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。(小山信行)

**フクロウ目 フクロウ科****C**

和名 トラフズク

環境省：該当なし

学名 *Asio otus otus* (Linnaeus)

全長35～40cm、翼開長91～102cm。耳の形をした羽角が長く、両目の内側に額からくちばしにかけて白色の線が目立ち、一見リスを思わせる容貌。目は橙色である。

ヨーロッパからアジア、北アメリカと生息分布が広い。我が国では北日本の林で繁殖し、冬期は本州以南で越冬する。県内では津軽地方に比較的多く、人里近くの林、社寺林に生息・繁殖している。巣はカラス、トビの古巣を利用することが多く、樹の穴にも営巣する。成鳥は繁殖期に“オーオー”と鳴き、巣立ち間もない幼鳥は夜通し“キーキー”とブランコがきしむように鳴く。餌はネズミを主食とし小鳥、昆虫も食べる。日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種である。

(小山信行)

**フクロウ目 フクロウ科****C**

和名 フクロウ

環境省：該当なし

学名 *Strix uralensis hondoensis* (Clark)

全長48～52cm、翼開長92～102cm。羽角がなく雪だるまのような丸く大きな頭部、幅広く短い翼、たたんだ翼の先端より尾が長く出る。体の上面は灰褐色で黒色・褐色の斑紋がある。

日本には4亜種が知られ、亜種フクロウは東北地方、栃木、新潟北部に分布し本県が北限。県内では山林、社寺林、老木のあるリンゴ園など広範に生息するが個体数は少ない。2月頃から“ゴロスケモッコ”と盛んに鳴き、4月下旬～5月下旬には雛が見られる。夜行性だが育雛期には昼でも餌運びをすることがある。樹洞に営巣、タカ類の巣や巣箱も利用する。ネズミや小鳥などを餌にする。

(小山信行)

**ブッポウソウ目 カワセミ科****C**

和名 ヤマセミ

環境省：該当なし

学名 *Ceryle lugubris lugubris* (Temminck)

全長38cm、翼開長67cm。白黒まだらで日本最大のカワセミ。頭部に白黒斑の冠羽がある。のどと腹部、翼の下面は白色で胸に帯状の斑点。飛ぶと翼下面の外周部と尾に白黒の帯が目立つ。

日本に2亜種が生息し、亜種ヤマセミは本県が北限。各地の魚の多い溪流に少数生息。水面上を直線的に飛び“ケラ・ケラララ”とよく鳴く。止まり場所や停空飛翔から水中に飛び込みイワナ・ヤマメ・ウグイなどを食べる。河川の土手に穴をあけて巣をつくり子育てをする。留鳥であるが、結氷期は河川の下流に移動する。まれに、市街地の河川や公園の堀に出現することがあるが、長期間は滞在しない。白黒の斑点があるため鹿子しょうびんの俗称がある。

(小山信行)

**キツツキ目 キツツキ科****C**

和名 アリスイ

環境省：該当なし

学名 *Jynx torquilla japonica* (Bonaparte)

全長18cm、翼開長28cm。特異なキツツキ。尾は角形、体色が灰褐色で、頭が大きく一見モズを連想させる。頭から背の中央に黒色の線、顔と体下面、尾の横縞が特徴。

日本全国に分布、中部日本以南では留鳥、県内では夏鳥で4～5月各地に少数が飛来する。渡来直後にはタカに似た声で“キィーキィキィキィ”とよく鳴く。直線的に飛び枝に普通の小鳥のように止まる。キツツキ類の古巣や樹幹の裂目で営巣し、巣箱も利用する(清棲, 1978a)。チゴハヤブサに似た鳴き声を出すため、これと間違われることが多い。

不吉な鳥とされ属名の*Jynx*はジnkスの語源(内田, 1983)。日米渡り鳥等保護条約指定種。

(小山信行)

**キツツキ目 キツツキ科****C**

和名 オオアカゲラ

環境省：該当なし

学名 *Dendrocopos leucotos stejnegeri* (Kuroda)

全長28cm、翼開長49cm。体色が白と黒が目立ち翼と尾に黒色の横縞がある。胸部の白色に黒の縦斑が特徴。成鳥雄は頭部の上部と下腹部が赤色、幼鳥の頭部も赤いが下腹部は白い。成鳥雌の頭部は黒色である。

日本に4亜種が生息し、亜種オオアカゲラは本州中部、北部に分布する留鳥で、本県が北限である。低山帯から奥深い森林まで広い範囲で見られるが個体数は少ない。大樹の多い広面積の森林に比較的好く見られる。“キョキョキョ”と鳴き、主に朽木などの昆虫を食べるが、積雪期には里でカキを食べることがある。

(小山信行)

**スズメ目 セキレイ科****C**

和名 セグロセキレイ

環境省：該当なし

学名 *Motacilla grandis* Sharpe

全長21cm、翼開長30cm。頭部・胸部・背が黒色。目の上の眉斑と喉部分が白色。尾は長く大部分が黒色で外側が白色。腹部は白色である。くちばしと足は黒色。

日本全国に生息する留鳥。県内では近年生息数が減少し、出現地域も少なくなった。大きな河川の中上流部、山地の湖沼・河川で見られ、奥深い溪流では中流から下流部に出現する。溪流が海に注ぐ場所では海岸部にも見られる。冬期は平地の湖沼、市街地の河川にも飛来する。“ジュンジュン”と鳴きながら波状に飛ぶ。“チチージョイジョイジョイ”と美しい声でさえずる。昆虫を食べる。

日本だけに生息繁殖している日本特産種。黒石市の鳥。

(小山信行)

**スズメ目 イワヒバリ科****C**

和名 カヤクグリ

環境省：該当なし

学名 *Prunella rubida* (Temminck et Schlegel)

全長14cm、翼開長21cm。一見全体が暗褐色に見える。胸部から腹部は暗灰褐色で、背・翼・腰・尾は茶褐色に黒褐色の縦線がある。足は橙色で後指の爪が長い。

日本全国の亜高山地帯に広く生息している。県内では白神山地、岩木山、八甲田山系などの標高の高い場所に生息している。わい化密生した樹木などの茂みで生活し、人目にふれることは少ない。春、秋には標高の低い灌木林にも出現する。積雪期には見られないことから、雪の少ない地方に移動していることが考えられる。

日本だけに生息繁殖している日本特産種。日露渡り鳥等保護条約指定種。

(小山信行)

**スズメ目 ツグミ科****C**

和名 コマドリ

環境省：該当なし

学名 *Erithacus akahige akahige* (Temminck)

全長14cm、翼開長21cm。頭部・胸部・尾が橙赤褐色、背と翼はやや黒ずんだ赤褐色。腹部中央は白色で周囲が灰色。胸を反らし尾を立てて“ヒン、カラカラカラララ”と大声でさえずる。

夏鳥として全国の山地に渡来し繁殖している。県内では白神山地、八甲田山系などに少数が生息している。高い木の梢に止まることはほとんどなく、茂みの地面や倒木・切株など地上の低い場所にいることが多い。春渡来直後は人家の植え込みや、低山帯の笹の多い小沢で見ることが多い。

学名にあるアカヒゲは同属の異種和名である。日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

(小山信行)

**スズメ目 ツグミ科****C**

和名 マミジロ

環境省：該当なし

学名 *Turdus sibiricus davisoni* (Hume)

全長24cm、翼開長38cm。雄は全身が黒色で白色の眉斑が特徴。雌はオリーブ褐色で白色の眉斑、喉が白く、腹部に淡褐色の横斑がある。飛翔時は雌雄とも翼の下面に白と黒の帯ができる。

サハリン、日本で繁殖、夏鳥として日本全国の山地に生息、冬は東南アジアに渡る。県内では各地のブナ林、ミズナラ林に生息しているが個体数が少ない。白神山地の林道などでは夕方、峠や尾根近くの樹上で“チョボチー、キヨロン・チー”とよく通る声で鳴いている。地上でミミズや昆虫を捕食し、サクラの実も食べる。マミジロは眉が白いの意である。

日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

(小山信行)

**スズメ目 ツグミ科****C**

和名 クロツグミ

環境省：該当なし

学名 *Turdus cardis* Temminck

全長22cm、翼開長34cm。雄は頭部・胸部・背・尾が黒色で、腹部は白色に黒色の三角斑が特徴。

中国中部、日本全国で繁殖、冬期は中国南部で越冬。県内には夏鳥として4月に渡来、低山帯のやや暗い森林に生息する。各地の防風林、雑木林などで繁殖しているが、近年出現頻度が少なくなった。集落内のスギ林などにも生息し、早朝から木の梢で“キヨロンキヨロンキョコキョコキョッキョ”とよくさえずる。なわばり意識が強く、他の個体が接近すると“キョキョキョキョ・チー”と激しく鳴いて威嚇する。地上でミミズや昆虫などを食べる。

日中渡り鳥保護協定指定種。

(小山信行)

**スズメ目 キバシリ科****C**

和名 キバシリ

環境省：該当なし

学名 *Certhia familiaris japonica* Hartert

全長14cm、翼開長20cm、頭部から背は淡褐色で白の縦縞、目の上に白の眉斑。胸、腹は白い。口ばしは細く、先が下に曲がる。

種としてはヨーロッパからアジア、北アメリカ南部と分布が広い。日本には2亜種が知られ、亜種キバシリは本県が生息の北限である。留鳥として本州中部では亜高山帯の混交林に生息するが、県内では低山帯の山林でも少数が繁殖している。木の多いやや暗い林地に出現し、生息数も少ないことから目にふれることがまれである。

(小山信行)

**スズメ目 ホオジロ科****C**

和名 ノジコ

環境省：準絶滅危惧

学名 *Emberiza sulphurata* Temminck et Schlegel

全長14cm、翼開長21cm、頭部は暗灰緑色で目のまわりが白いのが特徴。背は灰緑色と黒の縦じまがあり、下面は硫黄色で脇にわずかに灰緑色の縦じま模様がある。

日本特産種。本州に夏鳥として渡来、本州中部から北部の山地で繁殖、冬期は中国南部、台湾、フィリピンで越冬する。日本西南部でも越冬するものがある。本県は生息の北限で県内全域に出現繁殖するが個体数は少ない。繁殖期には低木混じりの草地、低山林地の林縁部、山地に近い河川敷などに出現、“チョンチョン、チョロリーチュチューチー”と澄んだ声でよくさえずる。

日中渡り鳥保護協定指定種。

(小山信行)

**スズメ目 ホオジロ科****C**

和名 クロジ

環境省：該当なし

学名 *Emberiza variabilis* Temminck

全長17cm、翼開長26cm、雄は全体が暗青灰色、背に褐色の縦すじ。ホオジロの仲間に共通の尾外側の白色羽がない。

分布は狭く、カムチャツカ、サハリン、日本である。本州中部以北で繁殖し、冬期は本州および本州南部で越冬する。県内では夏鳥としてやや標高の高いササの多い林地に少数が生息する。白神山地の秋田県境近くのブナ林には比較的多いが、樹木の多い暗い林地では姿を見ることは少なく、さえずりで生息を知ることが多い。春秋の移動の時期は平地の茂みにもよく出現する。

日露渡り鳥等保護条約指定種。

(小山信行)

**スズメ目 カラス科****C**

和名 ホシガラス

環境省：該当なし

学名 *Nucifraga caryocatactes japonica* Hartert

全長35cm、翼開長60cm、黒褐色に白い斑点が特徴。尾羽の先が白い。

亜種ホシガラスは留鳥として千島列島のウルップ島、北海道、本州、四国、九州のハイマツなどの生育する場所に生息する。県内では下北半島・津軽半島・白神山地・岩木山・八甲田山系など各地に生息しているが個体数は少ない。夏は標高の高い場所に多く、秋、冬は標高の低い林地にも漂行する。県民の森、梵珠山では秋ブナの実を食べる小群が出現する。春と秋、小泊岬から竜飛崎にかけて群で移動するものがあり、北海道との渡りの可能性もある。移動中の個体は林地ばかりでなく、崖・岩場・海岸などにも出現する。

(小山信行)

**ペリカン目 ウ科****D**

和名 ヒメウ

学名 *Phalacrocorax pelagicus pelagicus* Pallas

環境省：絶滅危惧ⅠB類

冬鳥として少数が渡来し、八戸市深久保にネグラがある（関下, 未発表）。県内では県南の太平洋側の外洋・港湾に少数見られ、陸奥湾ではほとんど確認されず、日本海側では毎年漁港などに少数が出現する。かつて陸奥湾弁天島で繁殖し（清棲, 1978c）、種差海岸では越夏個体が見られることもあるが、現在は県内繁殖地は確認されていない。日米渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定・日露渡り鳥等保護条約の指定種。

（関下斉）

**スズメ目 ウグイス科****D**

和名 セッカ

学名 *Cisticola juncidis bruniceps*

(Temminck et Schlegel)

環境省：該当なし

全長が13cmでスズメより小さい。草原や川原等に生息し昆虫類を採食する。

本種は青森県（1980）によると4月～10月に生息の記録がある。しかし、以後の情報については1990年前後に八戸地域で、1999年に三沢市で確認されているだけで、生息に関する情報が不足している。今後、検討に必要な情報を集める必要がある。

（阿部誠一）

**スズメ目 ホオジロ科****D**

和名 シマアオジ

学名 *Emberiza aureola ornata* Shulpin

環境省：絶滅危惧ⅠA類

国内では夏鳥として北海道内で少数繁殖し、県内では旅鳥として春と秋に観察される。下北半島（三上ら, 1977）や秋田での繁殖記録があることから県内では夏鳥として扱うこともある。渡来地である灌木のある湿原や草地が減少し生息環境は悪化している。日中渡り鳥保護協定・日露渡り鳥等保護条約指定種。

（関下斉）

**スズメ目 アトリ科****D**

和名 イスカ

学名 *Loxia curvirostra japonica* Ridgway

環境省：該当なし

冬鳥として少数渡来するが、県内では周年見られる地域がある。釜沢（1953）など数例の国内繁殖記録があり、県内では2008年1月に八戸市大須賀海岸の松林で抱卵が確認されている（関下, 未発表）。また、三八地域では違法飼育の手口として巣から雛を持ち去り飼育する方法が伝えられていることから、同地域では以前から繁殖していたと思われる。日中渡り鳥保護協定・日露渡り鳥等保護条約指定種。

（関下斉）

### ③引用文献

- 青森県 1980. 青森県の鳥獣. 160pp.
- 青森県 2000. 青森県の希少な野生生物—青森県レッドデータブック—. 283pp.
- 青森県 2004. イヌワシ保護対策調査報告書. 67pp.
- 青森県 2006. 青森県の希少な野生生物—青森県レッドリスト (2006年改訂増補版)—. 113pp.
- 蛭名純一 2007. 仏沼鳥類目録. おおせつからんど年報, 1: 2-9.
- 樋口孝城・広川淳子・浜田 強 1999. 北海道石狩川下流域におけるチュウヒの繁殖状況. 山階鳥研報, 31: 103-107.
- Higuchi, H. and H. Momose 1980. On the calls of the collared scops owl in Japan. *Tori*, 29: 91-94.
- 本州産クマゲラ研究会 2004. 北東北のクマゲラ. 東奥日報, 青森市. 123pp.
- 釜沢忠夫 1953. イスカの営巣. 野鳥, 18(3): 30-31.
- 北山 昭 1996. ねぐら入り前のツバメを襲うハヤブサの観察例. *Jpn. J. Ornithol.*, 45: 47-48.
- 清棲幸保 1978a. アリスイ. 増補新訂版日本鳥類大図鑑Ⅰ. 講談社, 東京. pp. 416-418.
- 清棲幸保 1978b. シマクイナ. 増補新訂版日本鳥類大図鑑Ⅱ. 講談社, 東京. pp. 697-698.
- 清棲幸保 1978c. ヒメウ. 増補新訂版日本鳥類大図鑑Ⅲ. 講談社, 東京. pp. 949-950.
- 三上正光 1978. シノリガモの繁殖確認. 野鳥, 43: 39.
- 三上直樹・杉山優子・扇谷照美・大八木昭 1977. 下北半島でシマアオジが繁殖. 野鳥, 38: 49.
- 宮 彰男・三戸貞夫・関下 斉・小田英昭 2005. 青森県仏沼干拓地で確認されたタマシギとヒメクイナの記録. 青森自然誌研究, 10: 51-52.
- 宮 彰男・三戸貞夫・蛭名純一・関下 斉 2007. 仏沼に生息するシマクイナについて. おおせつからんど年報, 1: 10-20.
- 森 信也 1980. オジロワシの繁殖生態. 鳥, 29: 47-68.
- 森岡照明・叶内拓哉・川田 隆・山形則男 1995. 日本のワシタカ類. 文一総合出版, 東京. 631pp.
- 向山 満 1978. 巣箱を利用したコノハズク. 野鳥, 38: 40-43.
- 成田 徹 1996. 三厩村における珍鳥その1. 青森自然誌研究, 1: 42-44.
- 日本鳥学会 2000. 日本鳥類目録・改訂第6版. 345pp.
- 日本野鳥の会 青森県支部・弘前支部 2001. 青森の野鳥. 東奥日報社, 青森. 295pp.
- 西出 隆 1979. 八郎潟干拓地におけるチュウヒの繁殖記録. 山階鳥研報告, 11(2): 109-120.
- 小笠原暁・奈良典明・千羽晋示・由井正敏・有沢 浩・内藤俊彦・牧田 肇 1990. 分布南限地におけるクマゲラの生態に関する基礎研究. (文部省科学研究補助・課題01102001). 75pp.
- 小山信行 2009. 2008津軽のオオセッカ. 野鳥をたずねて44年, 日本野鳥の会弘前支部. p. 25.
- 津軽ダム工事事務所 2008. 津軽ダムのクマタカ. 67pp.
- 内田清一郎 1983. 鳥の学名. ニュー・サイエンス社, 東京. 122pp.
- 上田恵介 2003. 日本のオオセッカは何羽いるのか. *Strix*, 21: 1-3.
- 柳澤紀夫 (監修) 1988. 鳥630図鑑. 日本鳥類保護連盟, 東京. 386pp.